

「第 3 次彦根市多文化共生推進プラン」
策定に係る調査結果報告書

令和 8 年 1 月
彦根市

I 調査の概要

1 調査目的

彦根市では令和 2 年度から令和 7 年度までを計画期間とした「第 2 次彦根市多文化共生推進プラン」に基づき、さまざまな多文化共生に関する事業を実施しています。令和 7 年度には、「第 3 次彦根市多文化共生推進プラン」を予定しています。次期プランの各種施策を検討するうえでの基礎資料とするため、本調査を実施しました。

2 調査対象

彦根市在住の 18 歳以上の外国人住民および日本人住民、自治会

3 調査機関

外国人住民：2024 年（令和 6 年）8 月 1 日から 9 月 30 日まで

日本人住民：2024 年（令和 6 年）7 月 26 日から 9 月 30 日まで

自治会：2024 年（令和 6 年）5 月 31 日から 8 月 31 日まで

4 調査方法

外国人住民：外国籍の方が居られる世帯に対し、アンケートの QR コード入りのチラシを郵送にて全戸配布（やさしい日本語、ポルトガル語、英語、中国語、ベトナム語の 5 種類）し、回答可能な言語での無記名回答を依頼

日本人住民：広報ひこね、彦根公式 LINE、X での周知および彦根市ホームページ上に公開して無記名回答を依頼

自治会：彦根市ホームページ上に公開して無記名回答を依頼

5 回答総数

外国人住民：184

日本人住民：496

自治会：12

※本文中の設問や選択肢の表記は、簡略化しています。

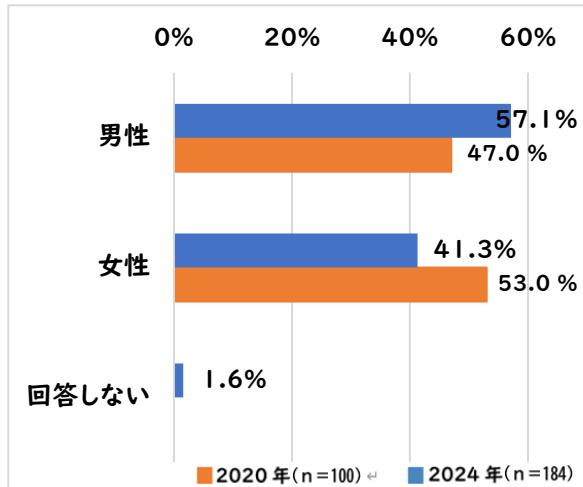
各回答項目の割合（%）は、端数処理の関係上（小数点第 2 位以下切り捨て）、合計が 100% にならない場合があります。

2020 年の調査結果には、無回答の割合が不明なため記載がありません。

II 調査結果

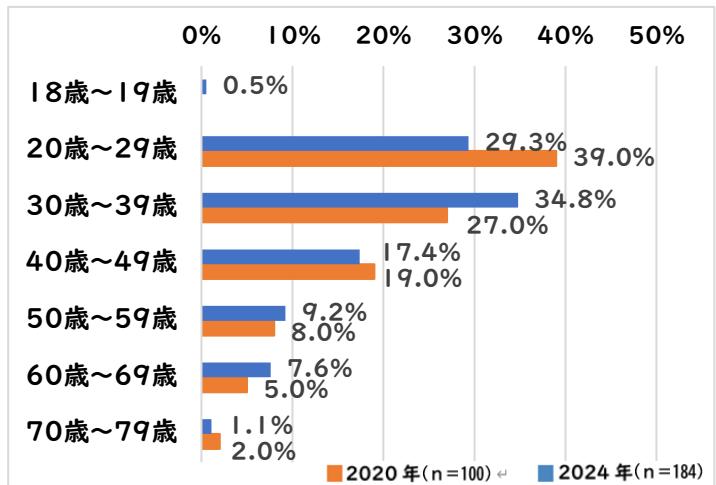
○ 外国人住民

問1 あなたの性別は。



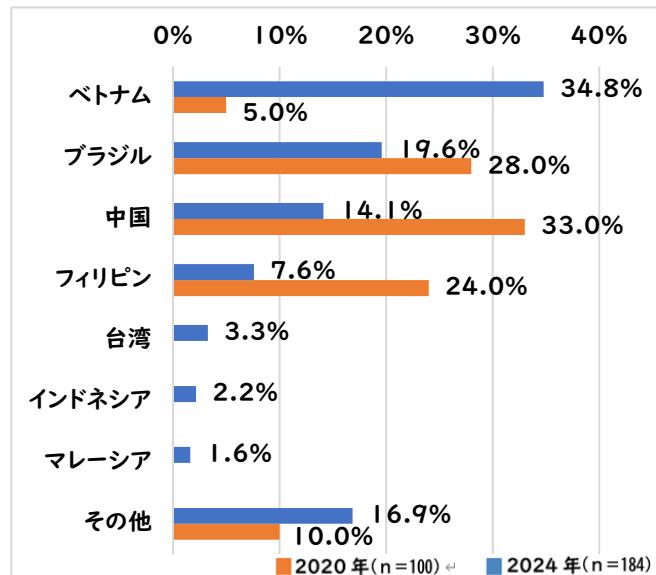
男性が 57.1%、女性が 41.3%、回答しないが 1.6%と、男性が多くなっています。

問2 あなたの年齢は。



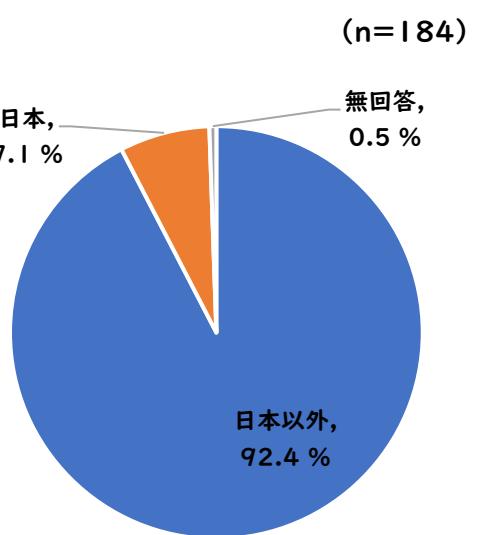
2020 年は 20～29 歳が最も多かったが、2024 年は 30～39 歳が一番多く、続いて 20～29 歳、40～49 歳となっています。

問3 あなたの国籍・地域は。



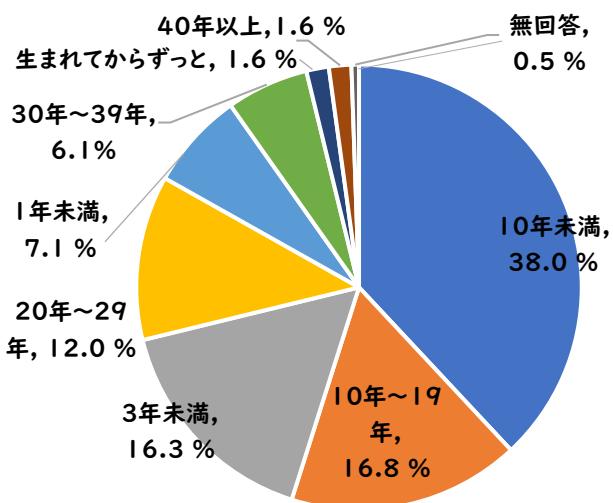
2020 年は「中国」が最も多かったが、2024 年はベトナムが一番多く、次いでブラジル、中国の順となっています。

問4 あなたの生まれた場所は。



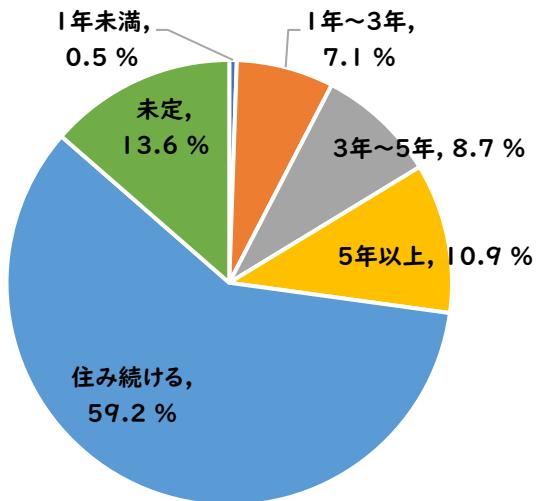
日本以外が 92.4% となっています。
※2020 年は調査していません。

問5 あなたが日本に住んでいる期間は、合計すると
どれくらいの長さになるか。(n=184)



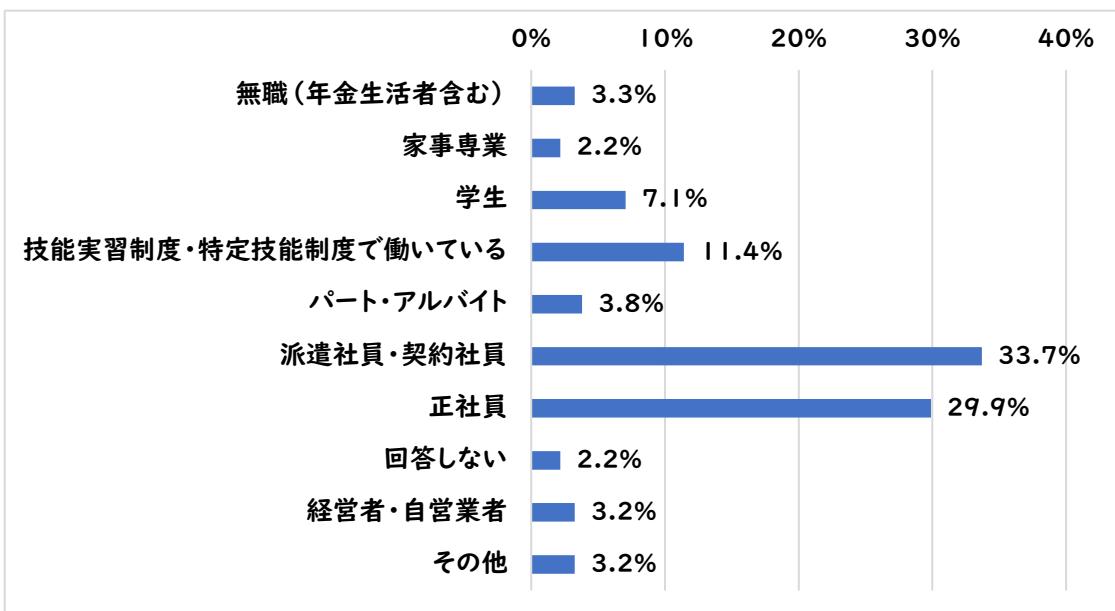
「10年未満」が38.0%と一番多く、次いで「10～19年」、「3年未満」となっています。
※2020年は調査していません。

問6 日本にどれくらい住む予定か。
(n=184)



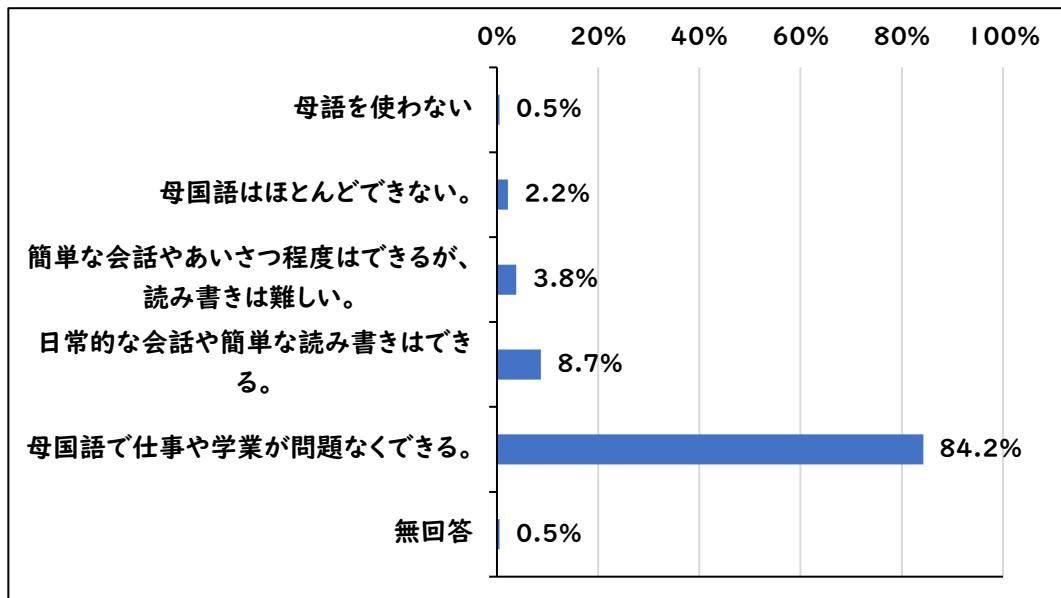
「住み続ける」が59.2%と最も多くなっています。
※2020年は調査していません。

問7 現在の仕事について。(n=184)



「派遣社員・契約社員」が33.7%と最も多く、次いで「正社員」、「技能実習制度・特定技能制度」となっています。
※2020年は調査していません。

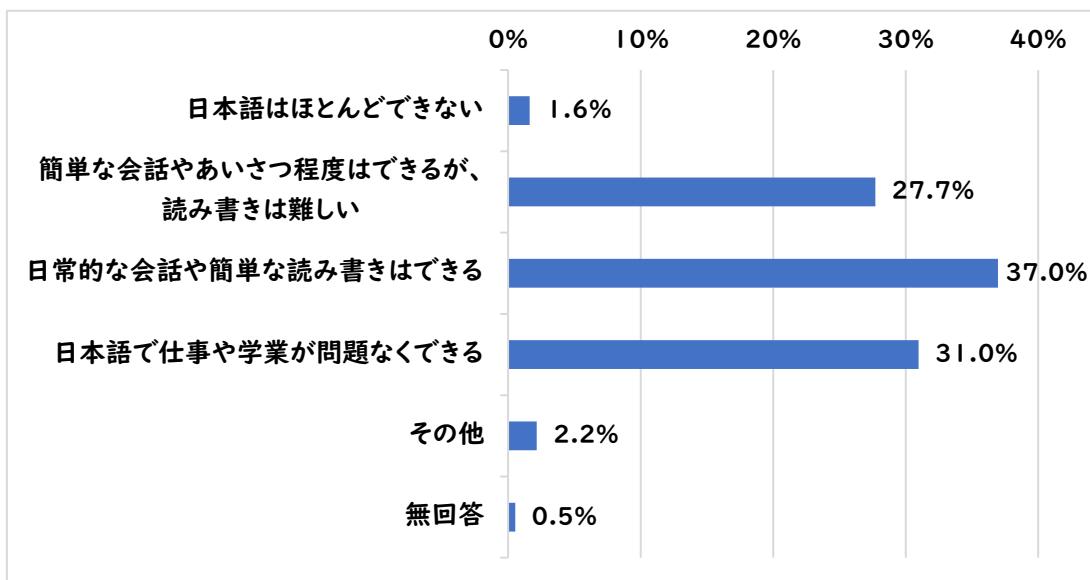
問8 母国語について。(n=184)



「母国語で仕事や学業が問題なくできる」が 84.2%と最も多く、次いで「日常的な会話や簡単な読み書きはできる」、「簡単な会話やあいさつ程度はできるが、読み書きは難しい」となっています。

※2020 年は調査していません。

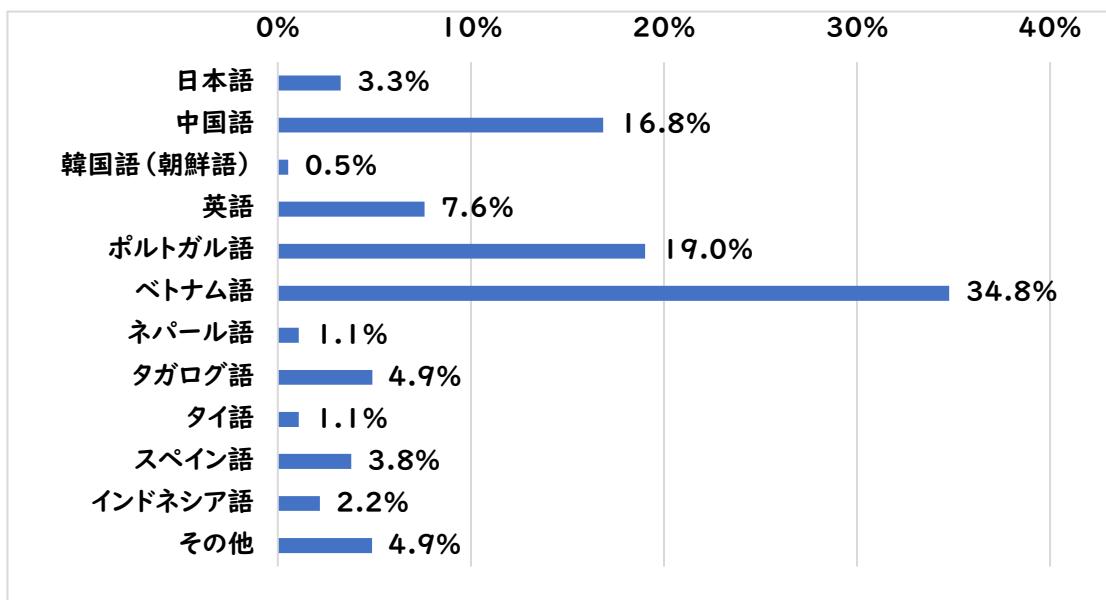
問9 日本語能力について。(n=184)



「日常的な会話や簡単な読み書きはできる」が 37.0%と最も多く、次いで、「日本語で仕事や学業が問題なくできる」、「簡単な会話やあいさつ程度はできるが、読み書きは難しい」となっています。

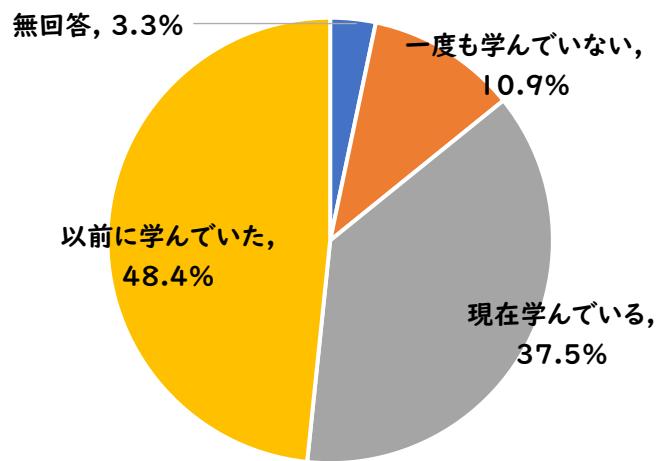
※2020 年は調査していません。

問 10 第一言語について。(n=184)



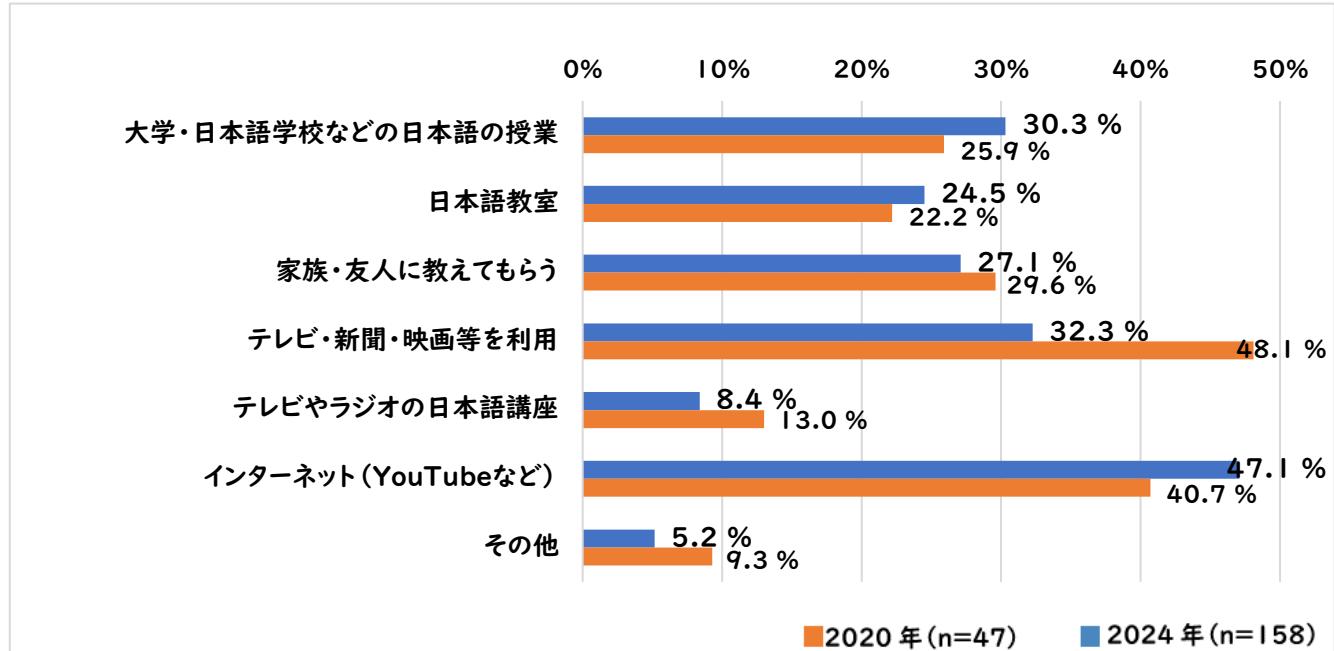
「ベトナム語」が 34.8%と最も多く、ついで「ポルトガル語」、「中国語」となっています。
※2020 年は調査していません。

問 11 日本語を勉強しているか。(n=184)



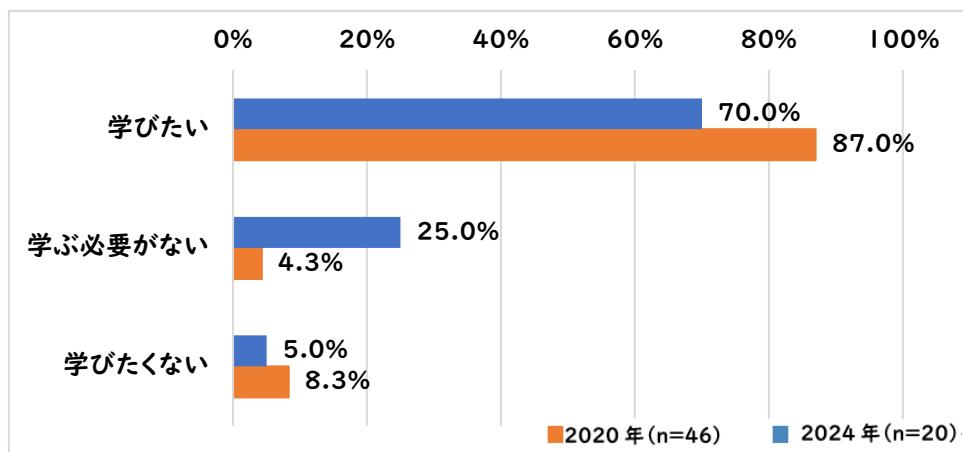
「以前に学んでいた」が 48.4%と最も多く、次いで「現在学んでいる」、「一度も学んでいない」となっています。
※2020 年は「今、学んでいる」54.0%、「学んでいない」46.0%の 2 択でした。

問 12 (問11で「現在学んでいる」・「以前に学んでいた」と答えた人のみ)どんな方法で日本語を学んでいるか。(いくつでも)



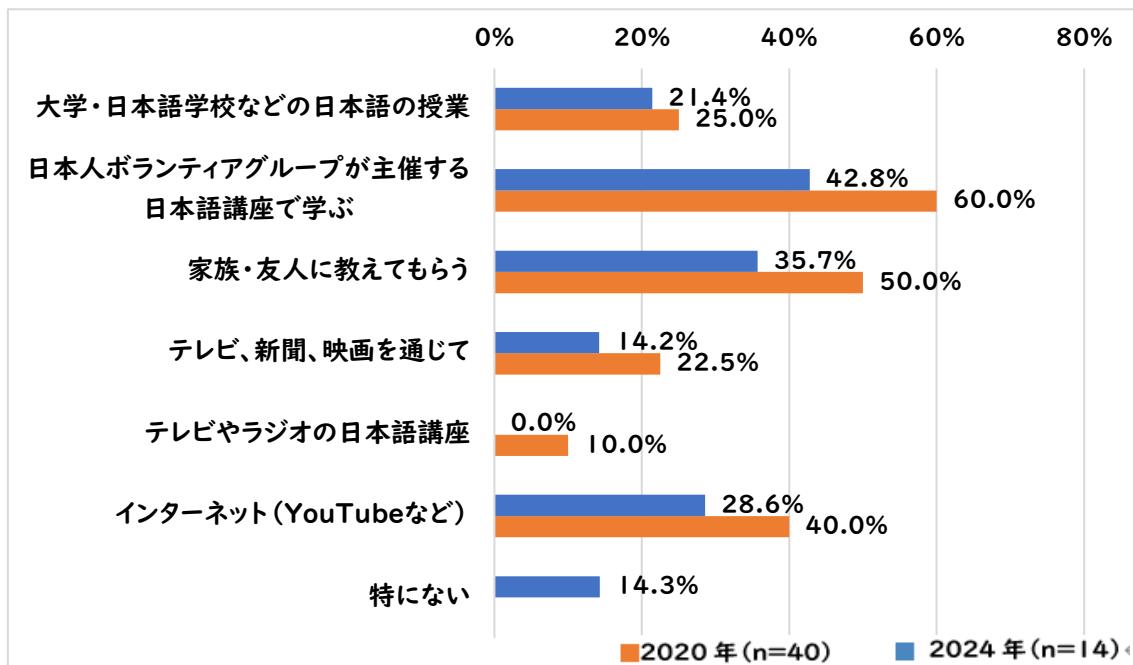
2020年は「テレビ・新聞・映画等を利用」が最も多いましたが、2024年は「インターネット(YouTubeなど)」が 47.1%と最も多く、次いで、「テレビ・新聞・映画等を利用」、「大学・日本語学校などの日本語の授業」となっています。

問 13 日本語を学びたいか。(問11で「一度も学んでいない」と回答した人のみ)



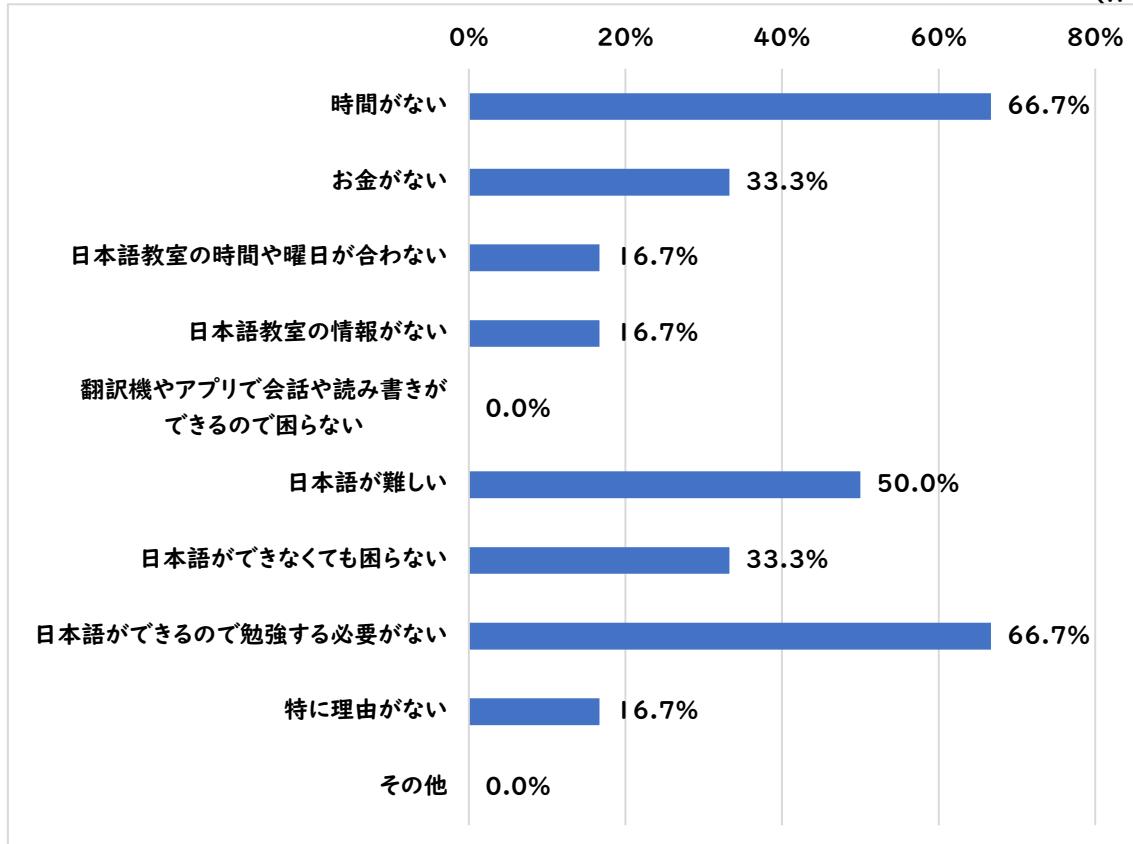
2020年、2024年ともに「学びたい」が最も多く、2024年は次いで「学ぶ必要がない」、「学びたくない」となっています。

問14 どんな方法で日本語を学びたいか。(問13で「学びたい」と回答した人のみ)(いくつでも)
(n=14)



2020年 2024年ともに「日本語ボランティアグループが主催する日本語講座で学ぶ」が最も多く、次いで「家族・友人に教えてもらう」、「インターネット」となっています。

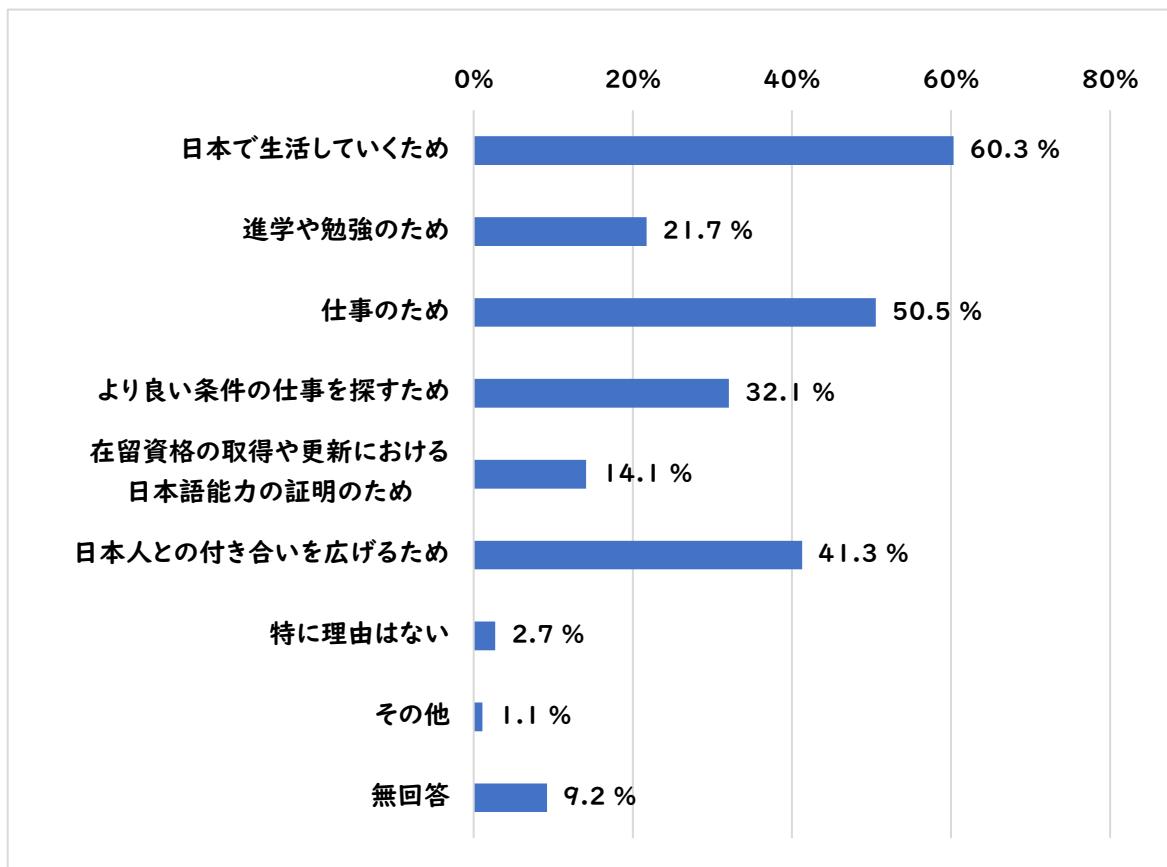
問15 (問13で「学びたくない」「学ぶ必要がない」と回答した人のみ)それはなぜか。(いくつでも)
(n=6)



「時間がない」、「日本語ができるので勉強する必要がない」が 66.7%と最も多い、次いで「日本語が難しい」、「お金がない」、「日本語ができなくても困らない」となっています。

※2024年調査で選択肢を変更したため、比較できません。

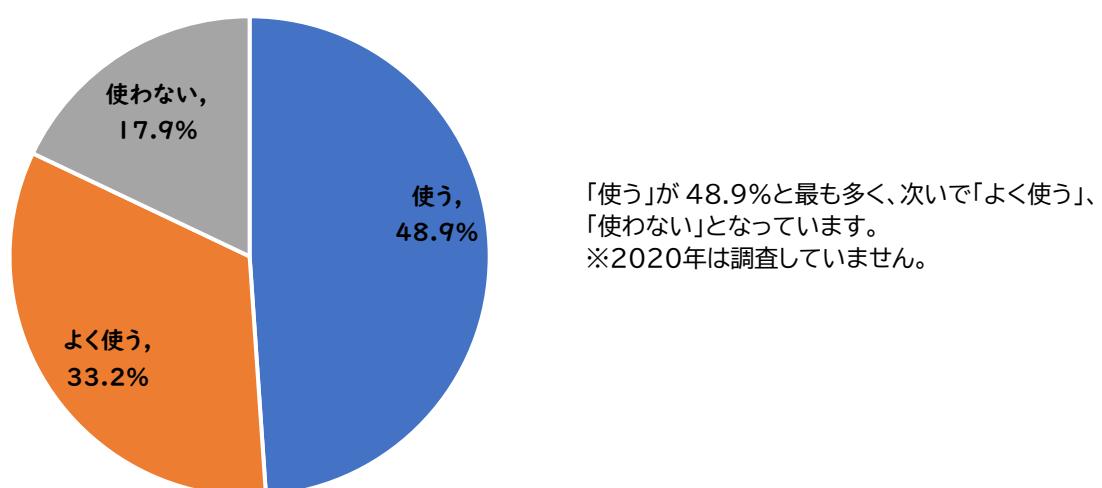
問16 何のために日本語を学んでいるか。または学んでいたか。(いくつでも) (n=157)



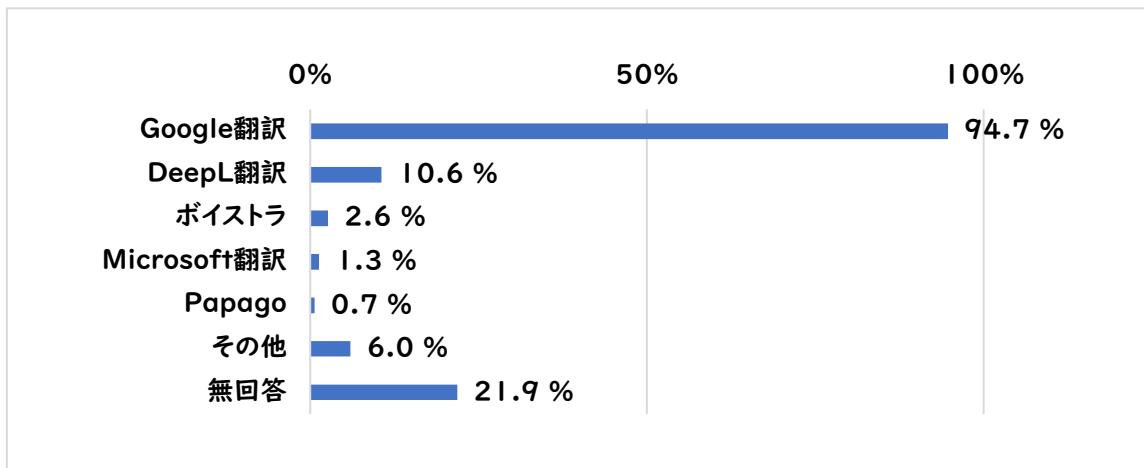
「日本で生活していくため」が 60.3%と最も多く、次いで「仕事のため」、「日本人との付き合いを広げるため」となっています。

※2020 年は調査していません。

問17 通訳・翻訳アプリはどのぐらい使うか。 (n=184)



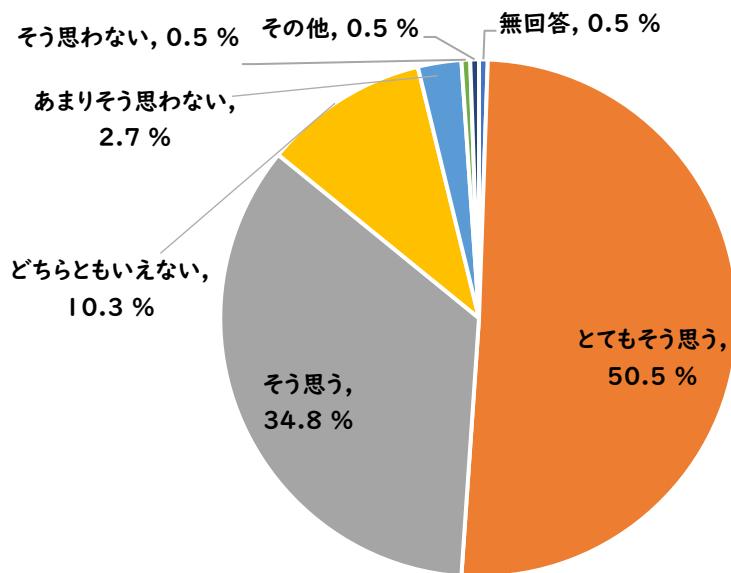
問18 どのような通訳・翻訳アプリを使ったことがあるか。(いくつでも) (n=184)



「Google 翻訳」が 94.7%と最も多く、次いで「DeepL 翻訳」「ボイストラ」となっています。(無回答、「その他」を除く。)

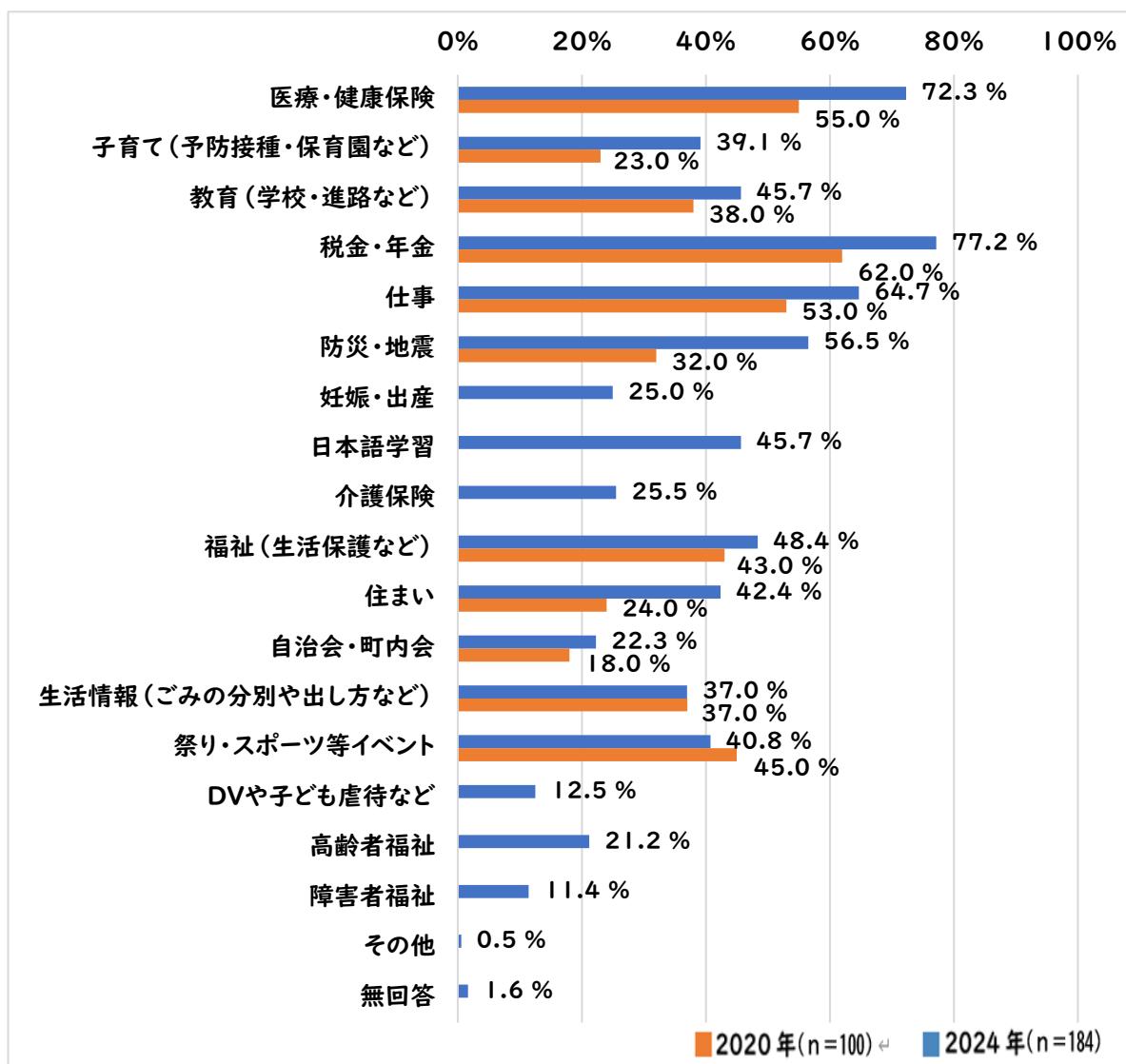
※2020年は調査していません。

問19 通訳・翻訳アプリの効果的な使い方を、日本人住民、外国人住民がもっと知る機会があればよいと思うか。(n=184)



「とてもそう思う」が 50.5%と最も多く、次いで「そう思う」、「どちらともいえない」となっています。
※2020年は調査していません。

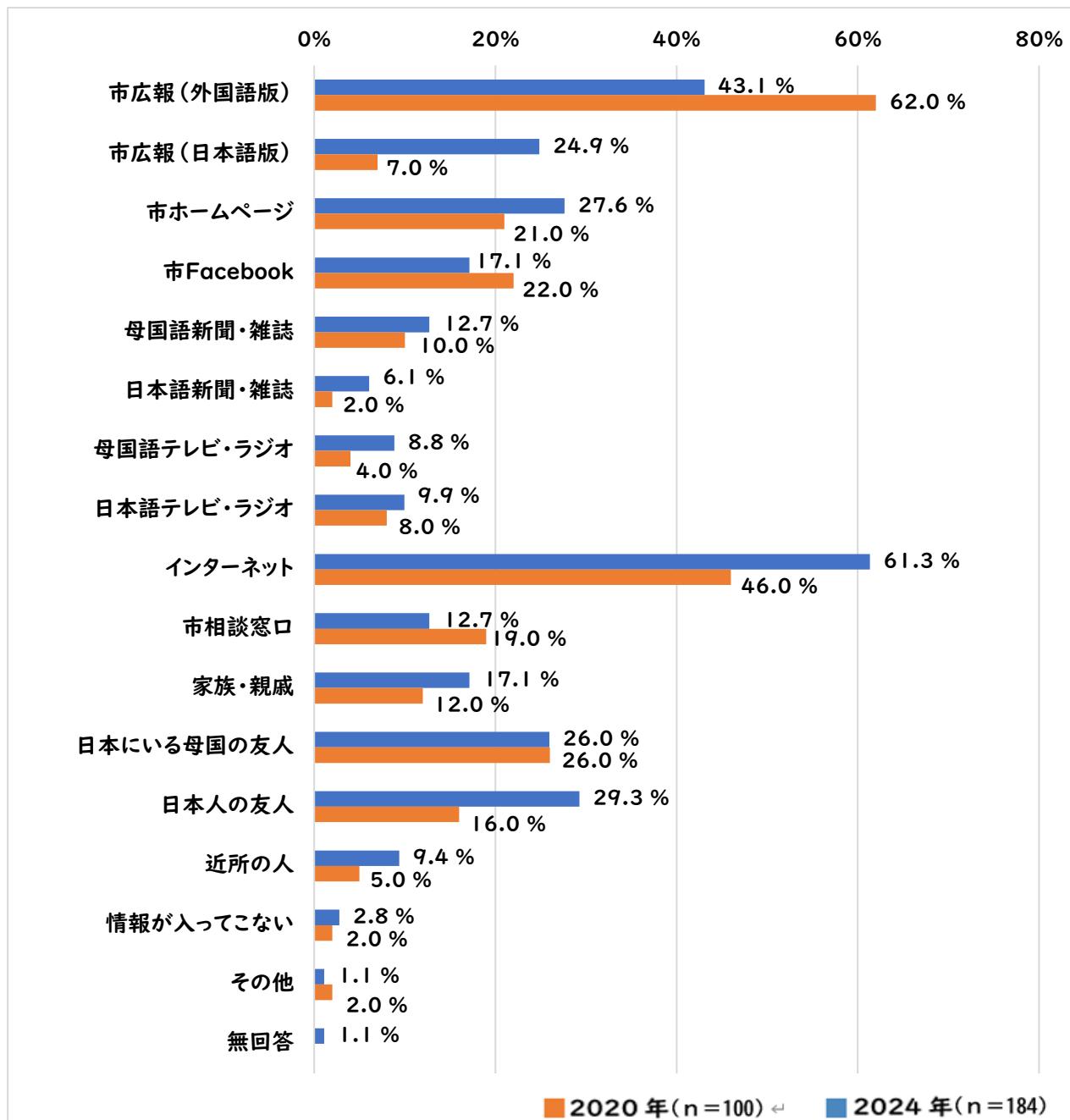
問20 どのような情報が必要か。(いくつでも) (n=184)



「税金・年金」が77.2%と最も多く、次いで「医療・健康保険」、「仕事」がとなっています。

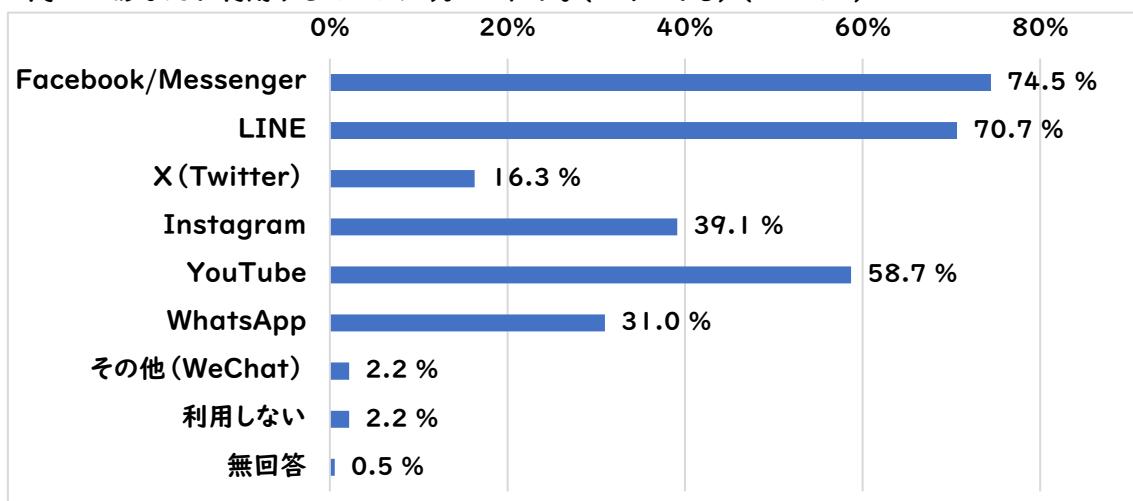
※2020年調査には、「妊娠・出産」「日本語学習」「介護保険」「DVや子ども虐待など」「高齢者福祉」「障害者福祉」の選択肢がなく、2024年調査で追加したため、比較できません。

問21 問20で必要と答えた情報はどのように入手するか。(いくつでも)



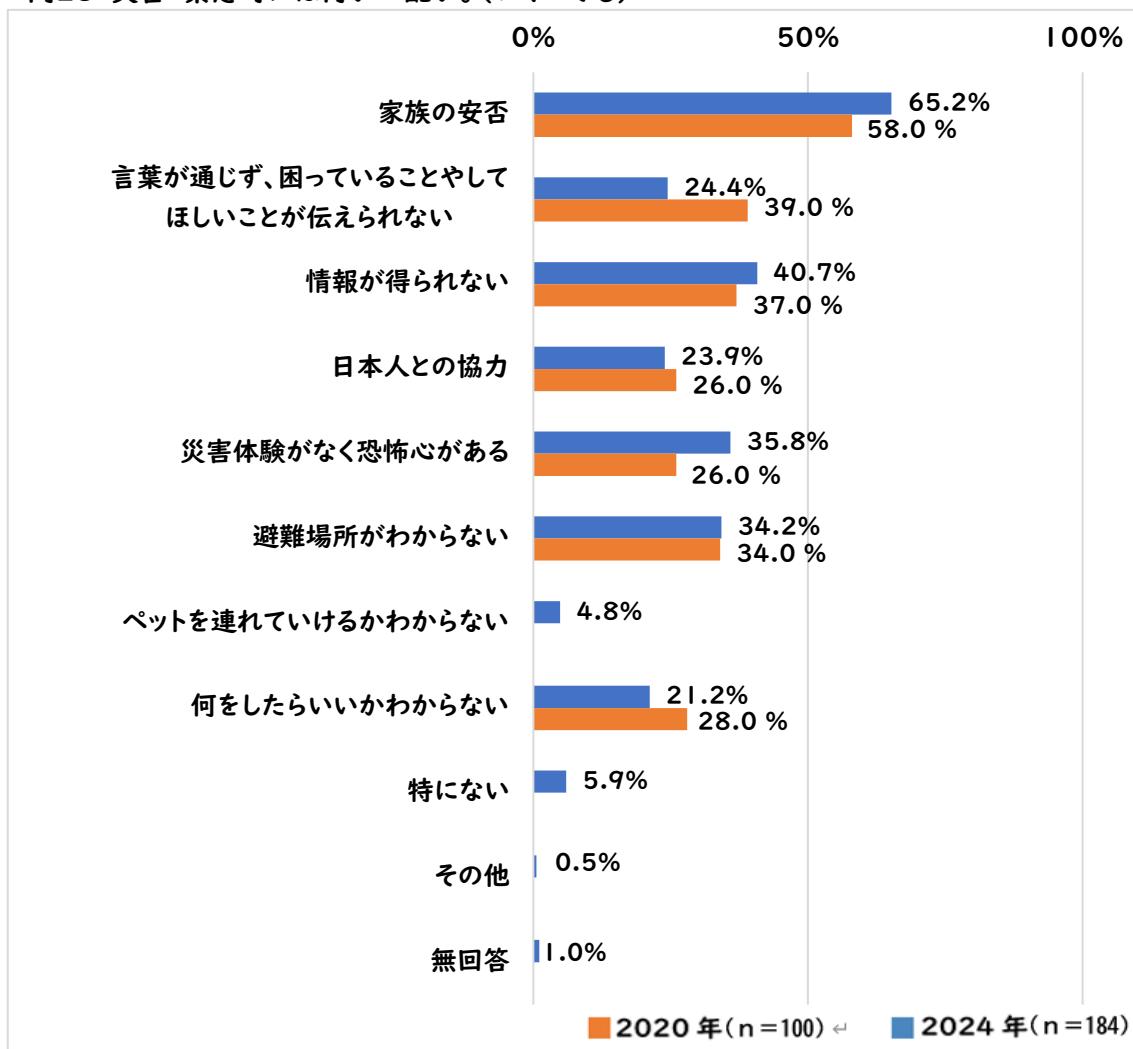
2020年は「市広報(外国語版)」が最も多かったが、2024年は「インターネット」が61.3%と最も多く、次いで、「市広報(外国語版)」、「日本人の友人」となっています。

問22 あなたが利用する SNS は次のどれか。(いくつでも) (n=184)



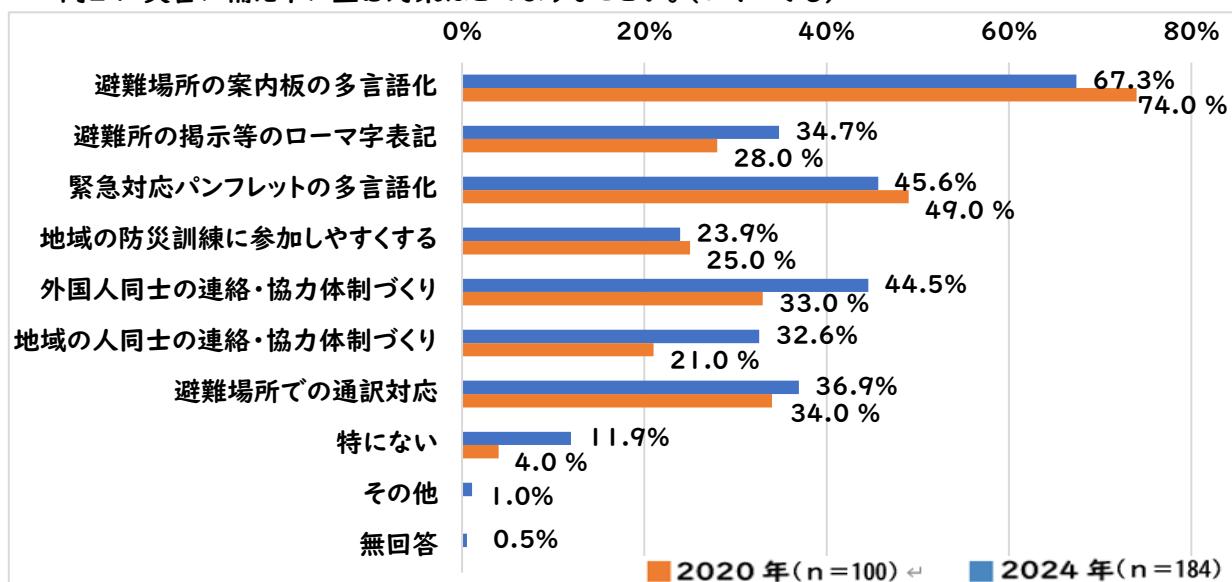
「Facebook/Messenger」が74.5%ともっと多く、次いで「LINE」、「YouTube」となっています。
※2020年は調査していません。

問23 災害・緊急時には何が心配か。(いくつでも)



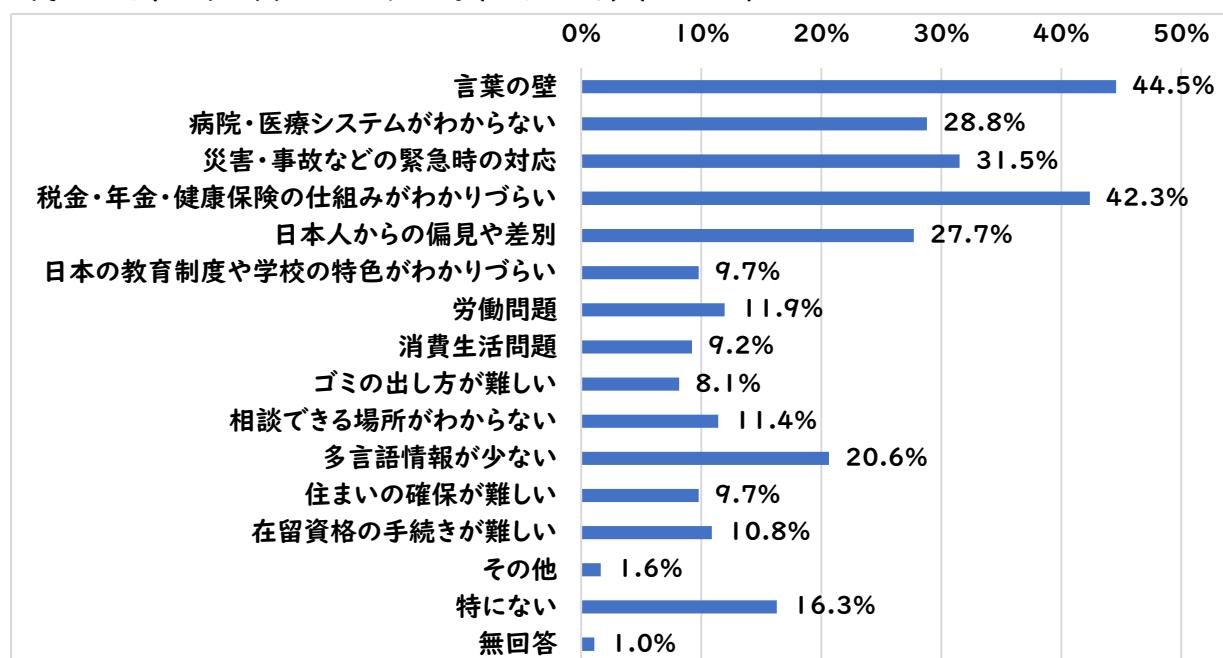
2020年、2024年ともに「家族の安否」が最も多く、2024年は次いで「情報が得られない」、「災害体験がなく恐怖心がある」となっています。
※2020年調査では「ペットを連れていくかわからない」の選択肢がなく、2024年調査で追加したため、比較できません。

問24 災害に備え市に望む対策はどのようなことか。(いくつでも)



2020年 2024年ともに「避難場所の案内看板の多言語化」が最も多く、2024年は次いで「緊急対応パンフレットの多言語化」、「外国人同士の連絡・協力体制づくり」となっています。

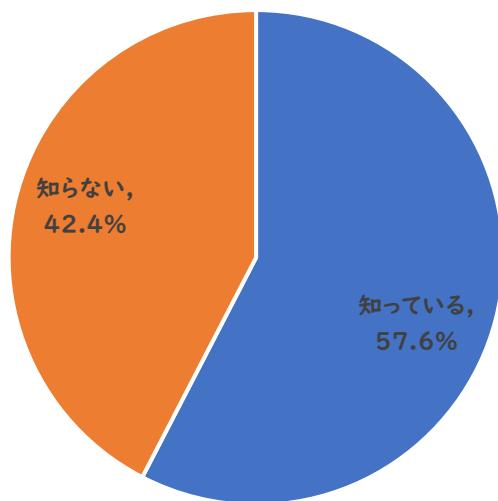
問25 日常生活で困ったことあるか。(いくつでも) (n=184)



「言葉の壁」が 44.5%と一番多く、次いで「税金・年金・健康保険の仕組みがわかりづらい」、「災害・事故などの緊急時の対応」となっています。

※2024年調査で選択肢を変更したため、比較できません。

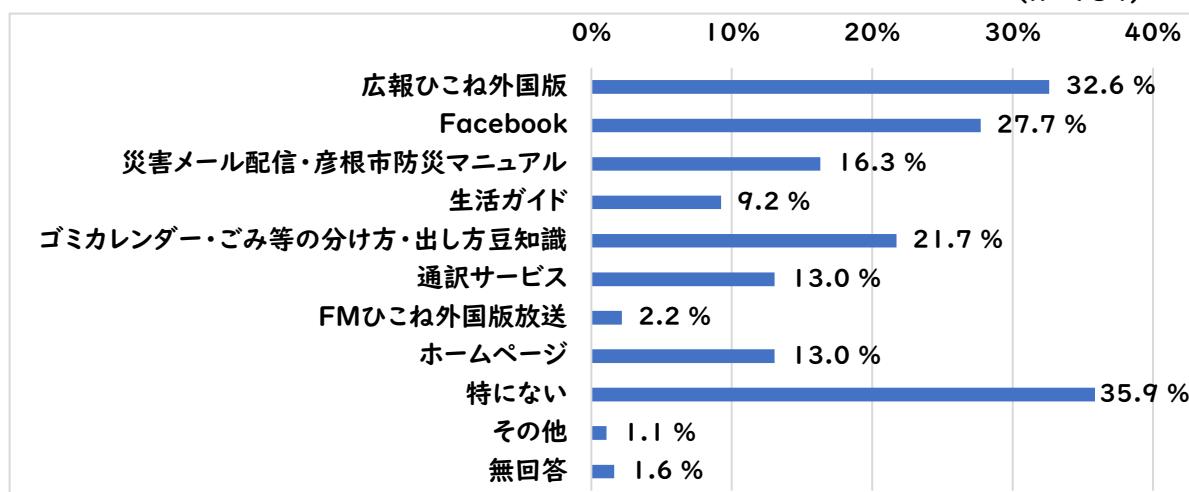
問26 ひこね外国人相談センターを知っているか。(n=184)



「知っている」が57.6%、「知らない」が42.4%となっています。
※2020年は調査していません。

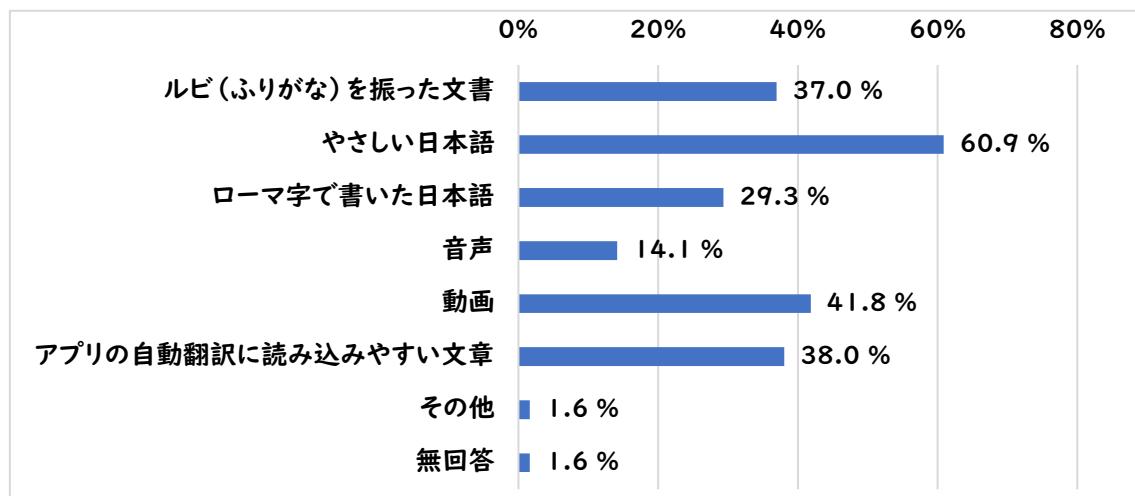
問27 あなたが利用している、彦根市が提供している多言語サービスはあるか。(いくつでも)

(n=184)



「特にない」が35.9%で最も多く、次いで、「広報ひこね外国語版」「Facebook」となっています。
※2020年は調査していません。

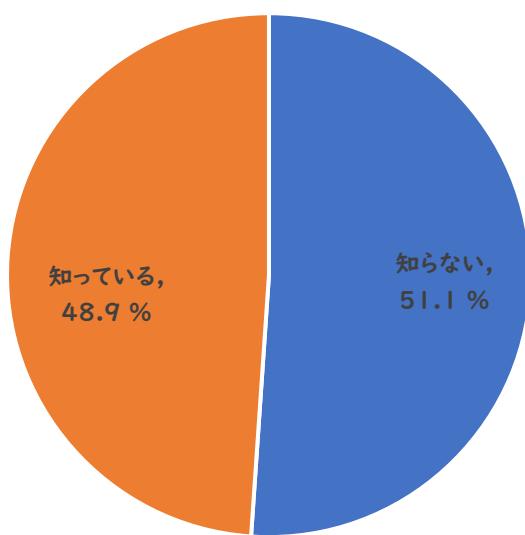
問28 市役所から外国人住民への情報提供はどのような形態が最も利用しやすいか。(いくつでも)
(n=184)



「やさしい日本語」が 60.9%と最も多く、次いで「動画」、「アプリの自動翻訳に読み込みやすい文章」となっています。

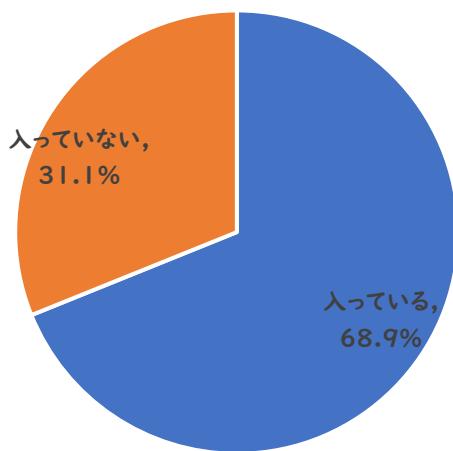
※2020 年は調査していません。

問29 町内会・自治会があることを知ってるか。 (n=184)



「知らない」が 51.1%、「知っている」が48. 9%となっています。
※2020 年は調査していません。

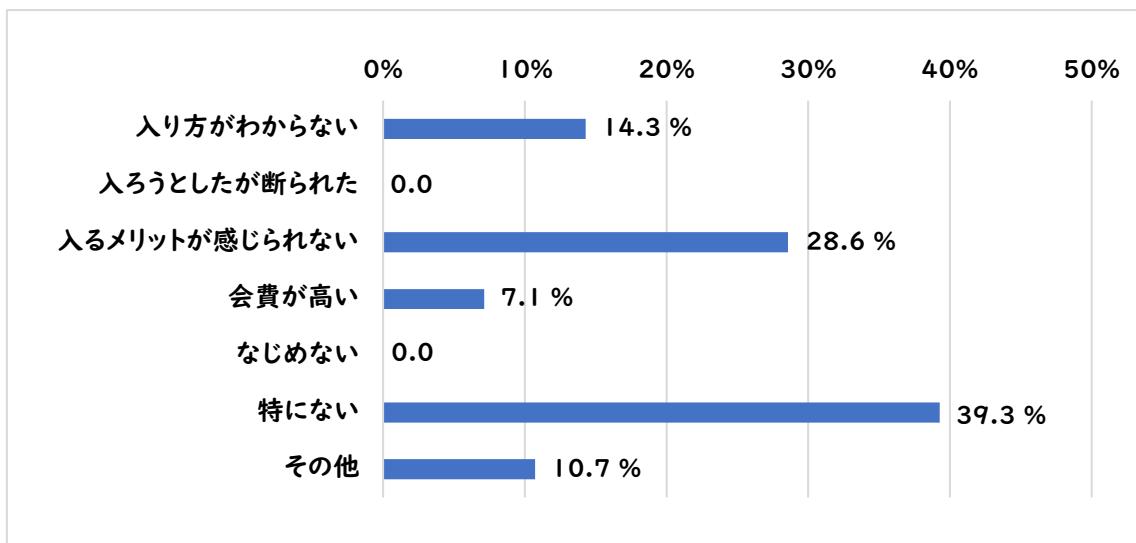
問30(問29で「知っている」と答えた方)町内会・自治会に入ってるか。 (n=90)



「入っている」が 68.9%、「入っていない」が 31.1%となっています。「入っていたが退会した」は0%でした。
※2020 年は調査していません。

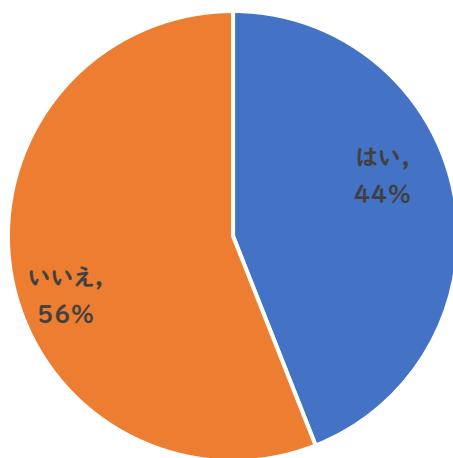
問31 (問30で「入っていない」「入っていたが退会した」と答えた方) 理由は。(いくつでも)

(n=28)



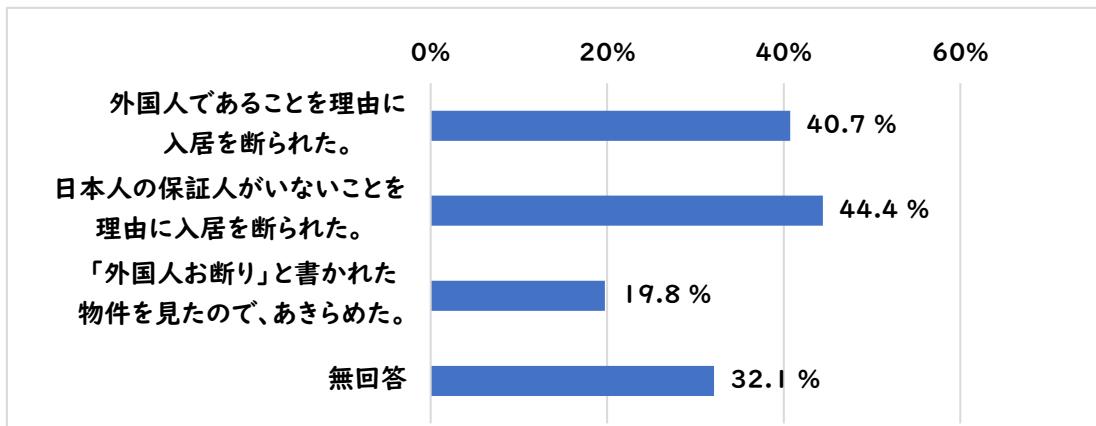
「特ない」が 39.3%と最も多く、「入るメリットが感じられない」、「入り方がわからない」となっています。
※2020 年は調査していません。

問32 あなたは日本で過去5年の間に、住む家（マンション、アパートを含む）を探したことがあるか。
(n=184)



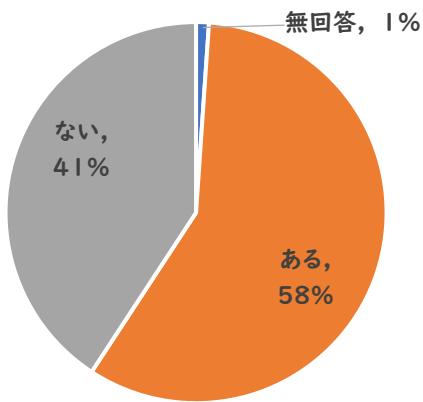
「いいえ」が56%、「はい」が44%となっています。
※2020年は調査していません。

問33 そのときに、次のような経験をしたことがあるか。（いくつでも）(n=81)



「日本人の保証人がいないことを理由に入居を断られた」が44.4%と一番多く、次いで「外国人であることを理由に入居を断られた」となっています。
※2020年は調査していません。

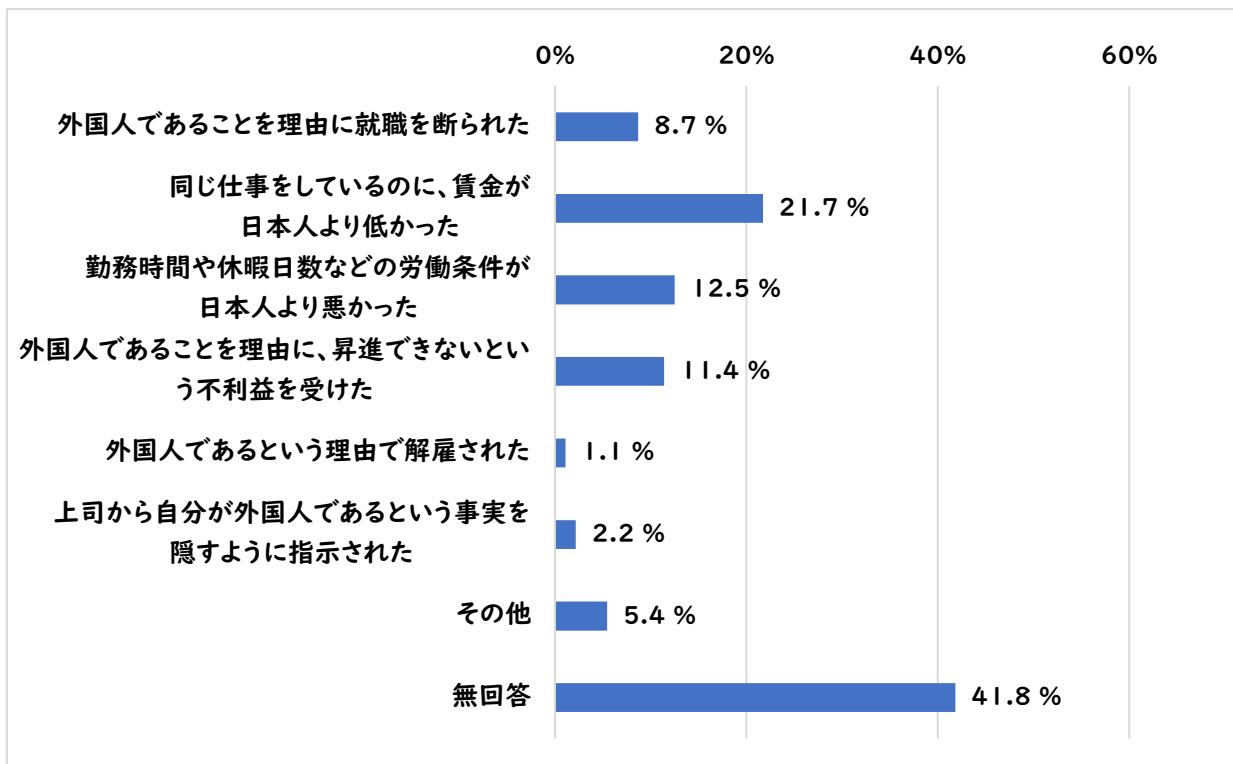
問34 日本で過去5年の間に、仕事を探したり、働いたりしたことがあるか。(パート、アルバイトも含む) (n=184)



「ある」が58%、「ない」が41%となっています。

※2020年は調査していません。

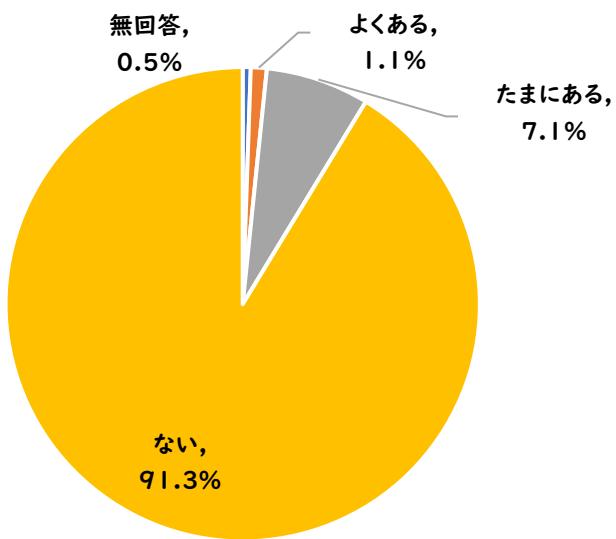
問35 そのときに、次のような経験をしたことがあるか。(いくつでも) (n=184)



回答のあった中では「同じ仕事をしているのに、賃金が日本人より低かった」が 21.7%と最も多く、次いで「勤務時間や休暇日数などの労働条件が日本人より悪かった」、「外国人であることを理由に、昇進できないという不利益を受けた」となっています。

※2020年は調査していません。

問36 日本で過去5年の間に、外国人であることを理由に、お店やレストランなどへの入店やサービスの提供を断られたことがあるか。（n=184）

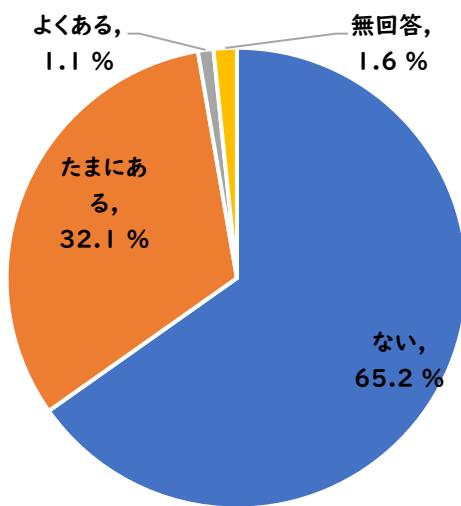


「ない」が91.3%と最も多く、次いで「たまにある」、「よくある」となっています。
※2020年は調査していません。

問37 どのようなときに断られたのか具体的に教えてください。

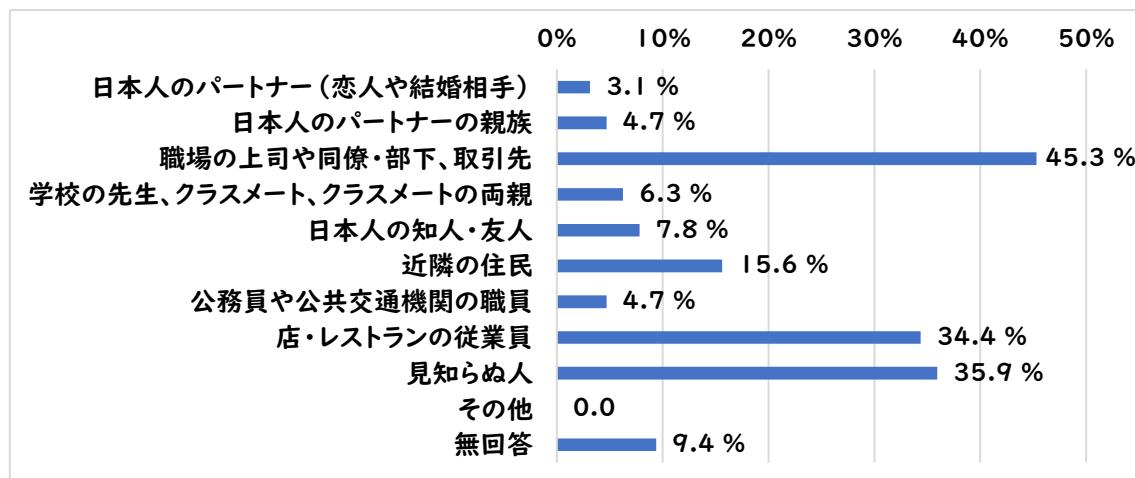
- ・アパートを借りようとしたとき、会社を通して、不動産業者から「物件を貸すことはできない。」と言われた。理由は「外国人であること、日本人は外国人を恐れている、強盗などの恐れがある。」と言われた。
- ・家を購入しようとしたときに、購入者が永住権を持っていても、家族全員が数年間永住権を取得していないと購入はできないといわれた。
- ・携帯電話をなかなか購入できなかった。
- ・日本語を流暢に話せなかっただため、病院で子どもの診察を断られた。
- ・注文したものと違う料理を提供されたり、注文していない料理を提供されて請求された。
- ・外国人であるため、盗みをすると思われお店の警備員に明らかに尾行された。

問38 あなたは日本で過去5年の間に、外国人であることを理由に侮辱されるなど差別的なことを直接言わされたことがあるか。 (n=184)



「ない」が 65.2% と最も多く、次いで「たまにある」、「よくある」となっています。
※2020 年は調査していません。

問39 誰から言わされたか。(いくつでも) (n=64)

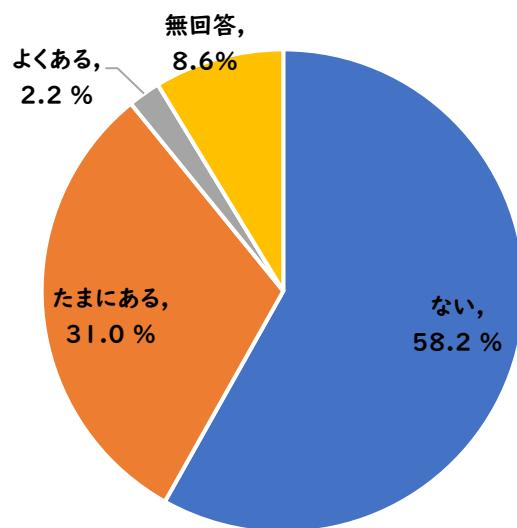


「職場の上司や同僚・部下、取引先」が 45.3% と最も多く、次いで、「見知らぬ人」、「店・レストランの従業員」となっています。
※2020 年は調査していません。

問40 日本で過去5年の間に、次のような経験をしたことがあるか。

- ① 職場や学校の人々が外国人に対する偏見を持っていて、人間関係がうまくいかなかった。

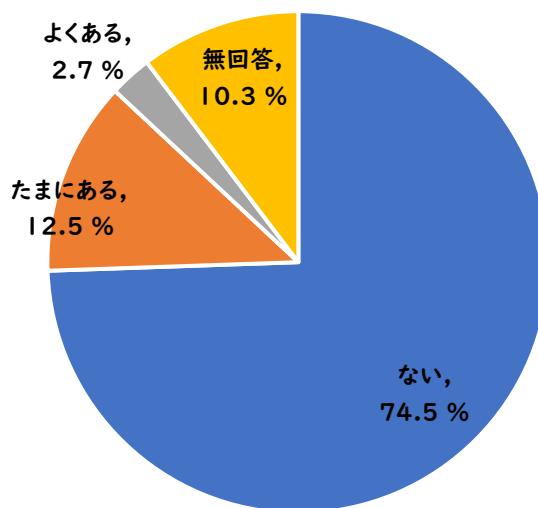
(n=184)



「ない」が58.2%と最も多く、次いで「たまにある」、「よくある」となっています。

※2020年は調査していません。

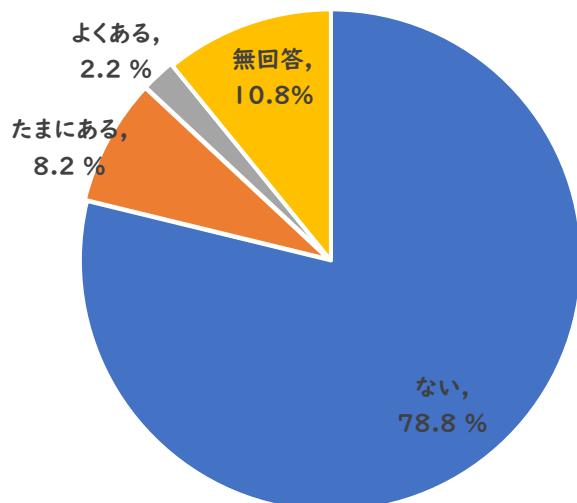
- ② 職場・学校で、外国人であることを理由にいじめを受けた。(n=184)



「ない」が74.5%と最も多く、次いで「たまにある」、「よくある」となっています。

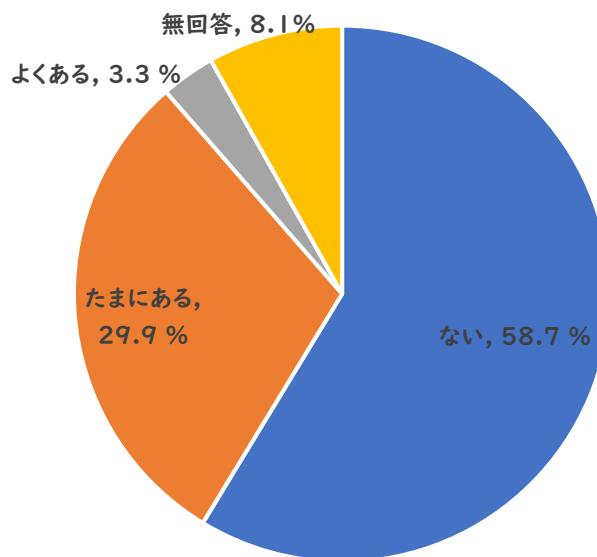
※2020年は調査していません。

③ 名前が日本人風でないことによって嫌がらせを受けた。(n=184)



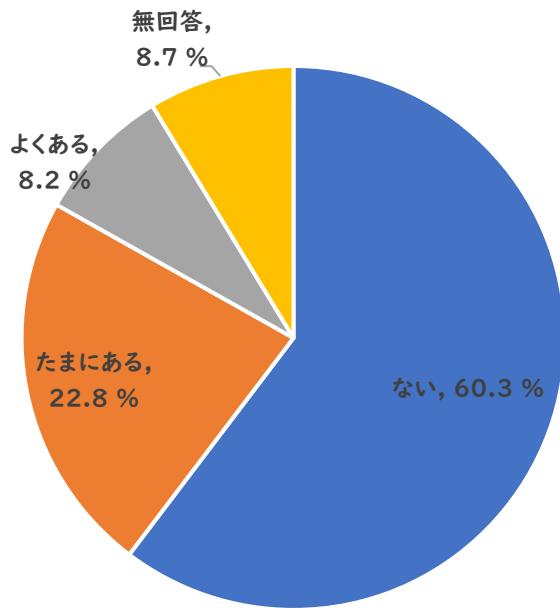
「ない」が78.8%と最も多く、次いで「たまにある」、「よくある」となっています。
※2020年は調査していません。

④ 日本語がうまく使えないことで嫌がらせを受けた。(n=184)



「ない」が58.7%と最も多く、次いで「たまにある」、「よくある」となっています。
※2020年は調査していません。

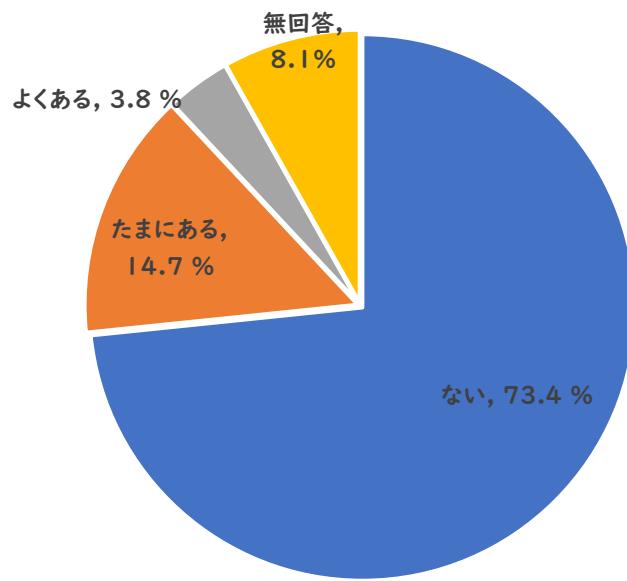
⑤ 知らない人からジロジロ見られた。(n=184)



「ない」が60.3%と最も多く、次いで「たまにある」、「よくある」となっています。

※2020年は調査していません。

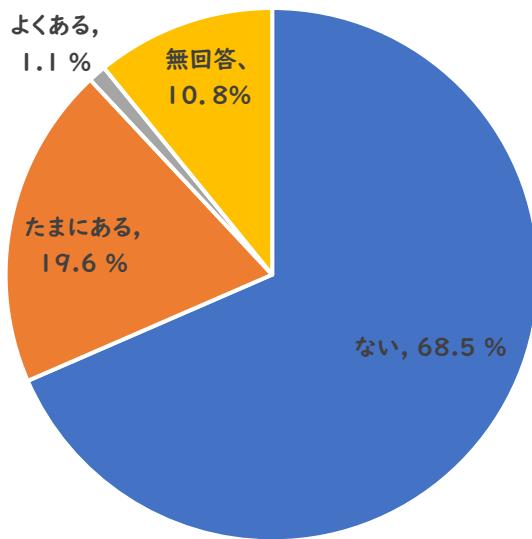
⑥ バスや電車、ショッピングセンターなどの公の場で自分を避けるようにされた。(n=184)



「ない」が73.4%と最も多く、次いで「たまにある」、「よくある」となっています。

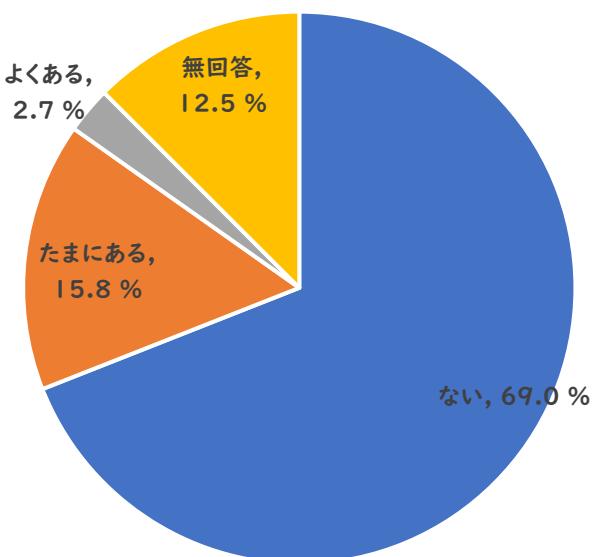
※2020年は調査していません。

⑦ 近所の住民になかなか受け入れてもらえない。(n=184)



「ない」が68.5%と最も多く、次いで「たまにある」、「よくある」となっています。
※2020年は調査していません。

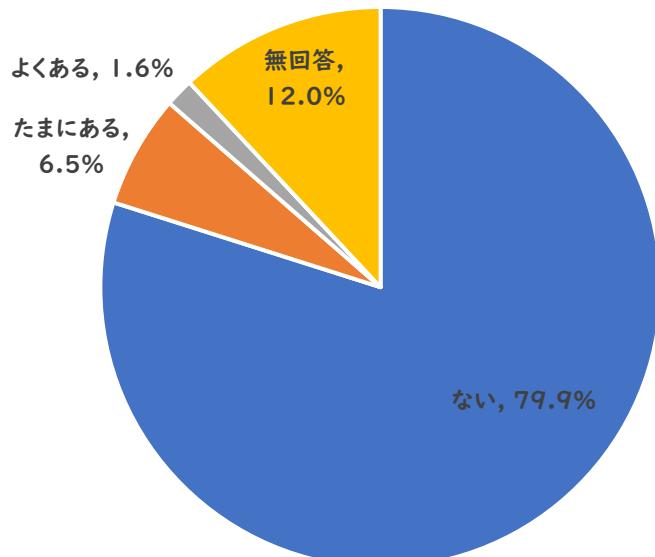
⑧ 人に話しかけたが無視された。(n=184)



「ない」が69.0%と最も多く、次いで「たまにある」、「よくある」となっています。
※2020年は調査していません。

⑨ 日本人との交際・結婚に際し、外国人であることを理由に相手の親族から反対された。

(n=184)

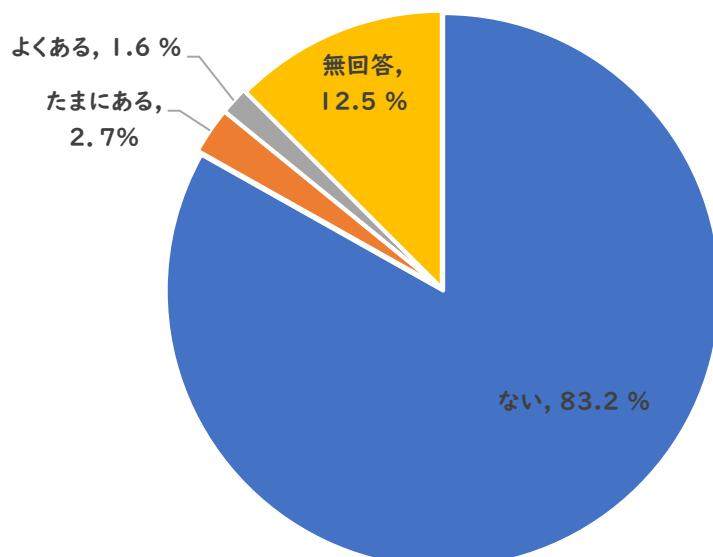


「ない」が 79.9% と最も多く、次いで「たまにある」、「よくある」となっています。

※2020 年は調査していません。

⑩ 日本人の家族や親族などから、自分の子どもに出身国（地域）の文化を教えてはいけないといわれた。

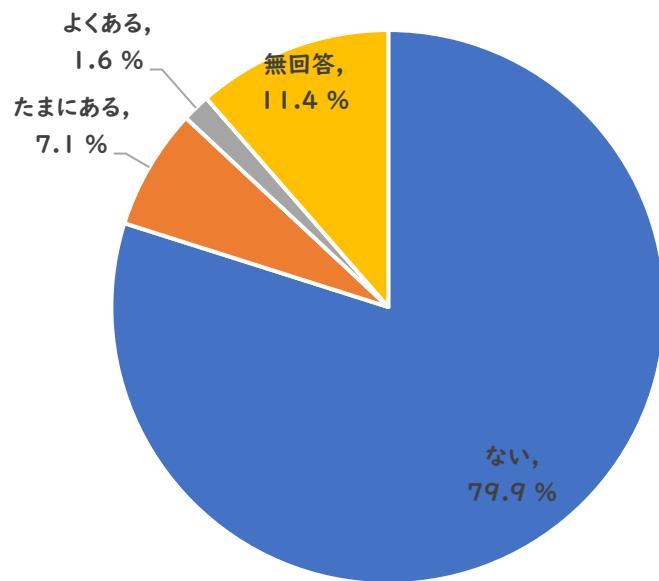
(n=184)



「ない」が 83.2% と最も多く、次いで「たまにある」、「よくある」となっています。

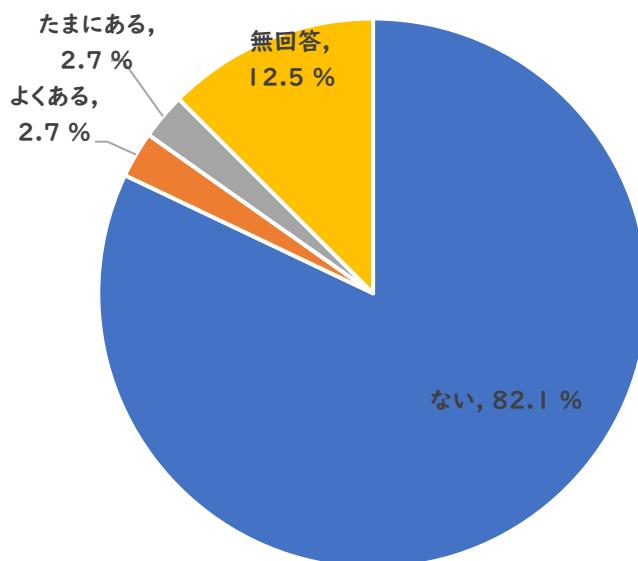
※2020 年は調査していません。

- ⑪ 日本人の家族や親族などから、出身国（地域）やその文化について、侮辱されたり、からかわれたりした。
(n=184)



「ない」が 79.9% と最も多く、次いで「たまにある」、「よくある」となっています。
※2020 年は調査していません。

- ⑫ 日本人の家族や親族などから、日本人風の名前を名乗るように促された。 (n=184)

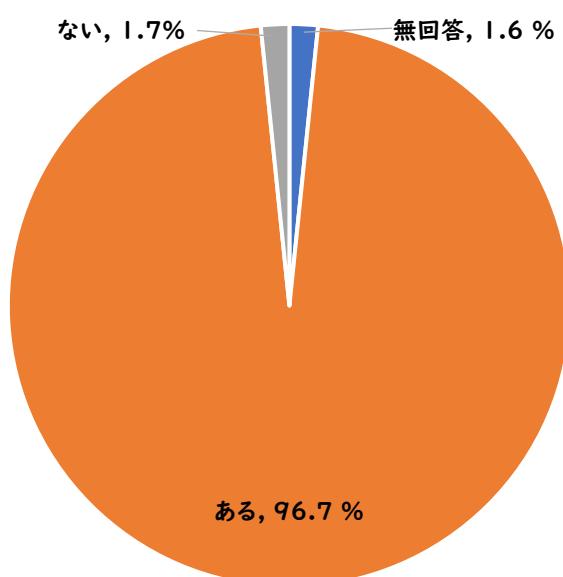


「ない」が 82.1% と最も多く、次いで「よくある」、「たまにある」となっています。
※2020 年は調査していません。

問41 上記に加えて、日本人が外国人に対して偏見があると感じた他の経験は。（自由記述）

- ・引っ越したばかりの頃は、日本人は友好的ではなく、用心深く警戒心が強いことが多かった。
- ・不当な扱いを受けた。
- ・来日したときに、自分の国が後進国で日本語も上手ではなかったため、日本人は自分たちに偏見を持っていた。
- ・外国人であることを理由に部屋を貸してもらえなかった。
- ・子どもが保育園に通っていた頃、ほかの子どもがうちの子どもを指さしながら「外国人は保育園に来ちゃダメ」と言うのを耳にした。まだ幼い子どものことだったので、ことさら事を荒げることはしなかったが、もしその後もまた同じことが起こっていたら先生に話していたと思う。
- ・買い物をしていた時「商品に触れないでください」といった表示がなにもされていなかったのに、（商品を触ったら）突然店側から強く叱責された。
- ・日本人の友人に自己紹介をしたところ、日本人ではないと分かったとたん連絡を絶たれた。
- ・長男は大学を卒業しているが、日本の学校で友達は居なかった。末っ子も友達がいなくて悲しそう。
- ・同僚から差別を受けている。
- ・店舗で店員に無視された。

問42 あなたは普段、インターネットを利用することがあるか。

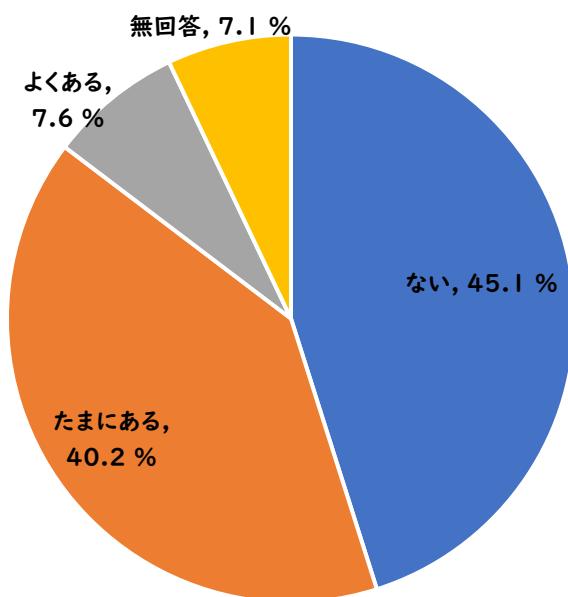


「ある」が 96.7%、「ない」が 1.7%となっています。

※2020 年は調査していません。

問43 インターネットを利用している時に、次のような経験があるか。

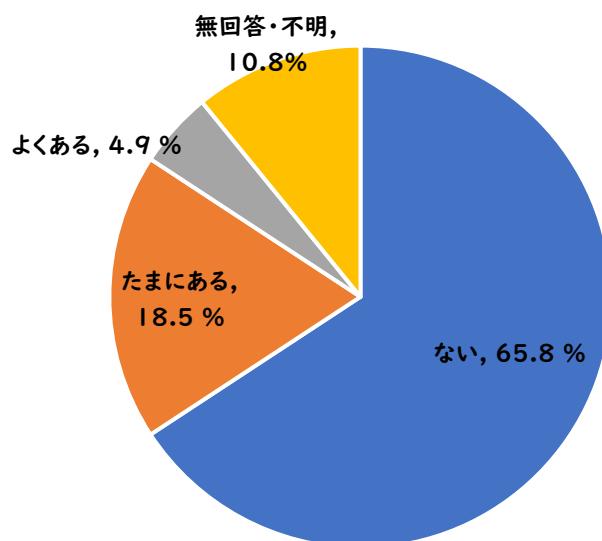
①日本に住む外国人を排除するなどの差別的な記事、書き込みを見た。



「ない」が 45.1%、次いで「たまにある」、「よくある」となっています。

※2020 年は調査していません。

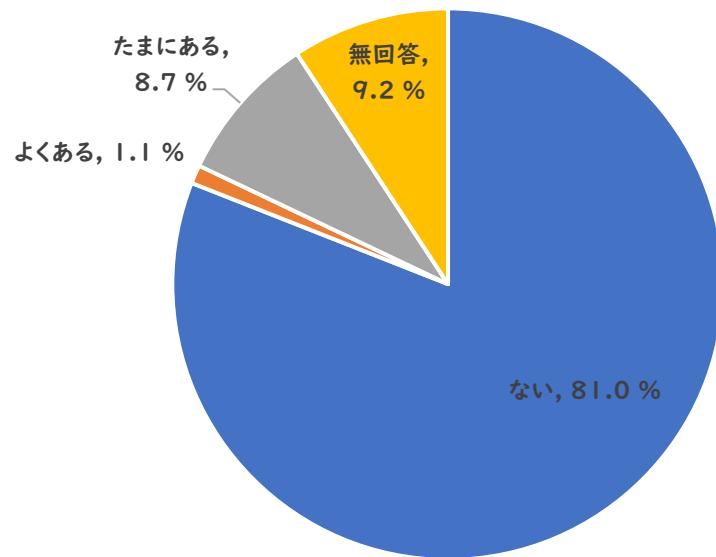
②①のような記事、書き込みが目に入るのが嫌で、そのようなインターネットサイトの利用を控えた。



「ない」が 65.8%、次いで「たまにある」、「よくある」となっています。

※2020 年は調査していません。

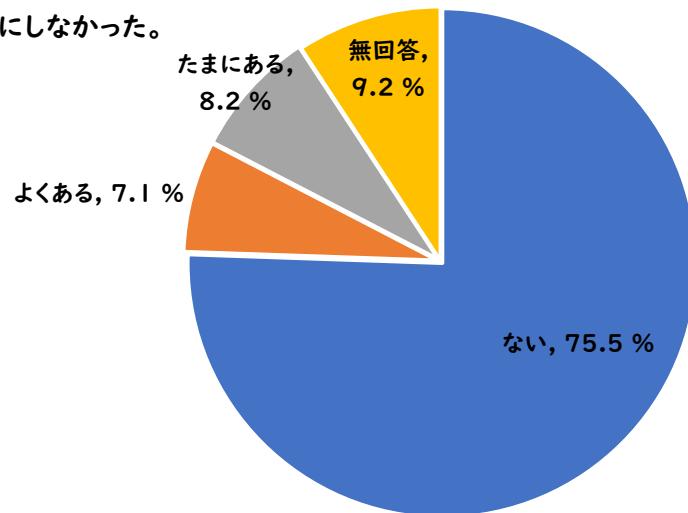
③自分のインターネット上の投稿に、差別的なコメントをつけられた。



「ない」が 81.0%、次いで「たまにある」、「よくある」となっています。

※2020 年は調査していません。

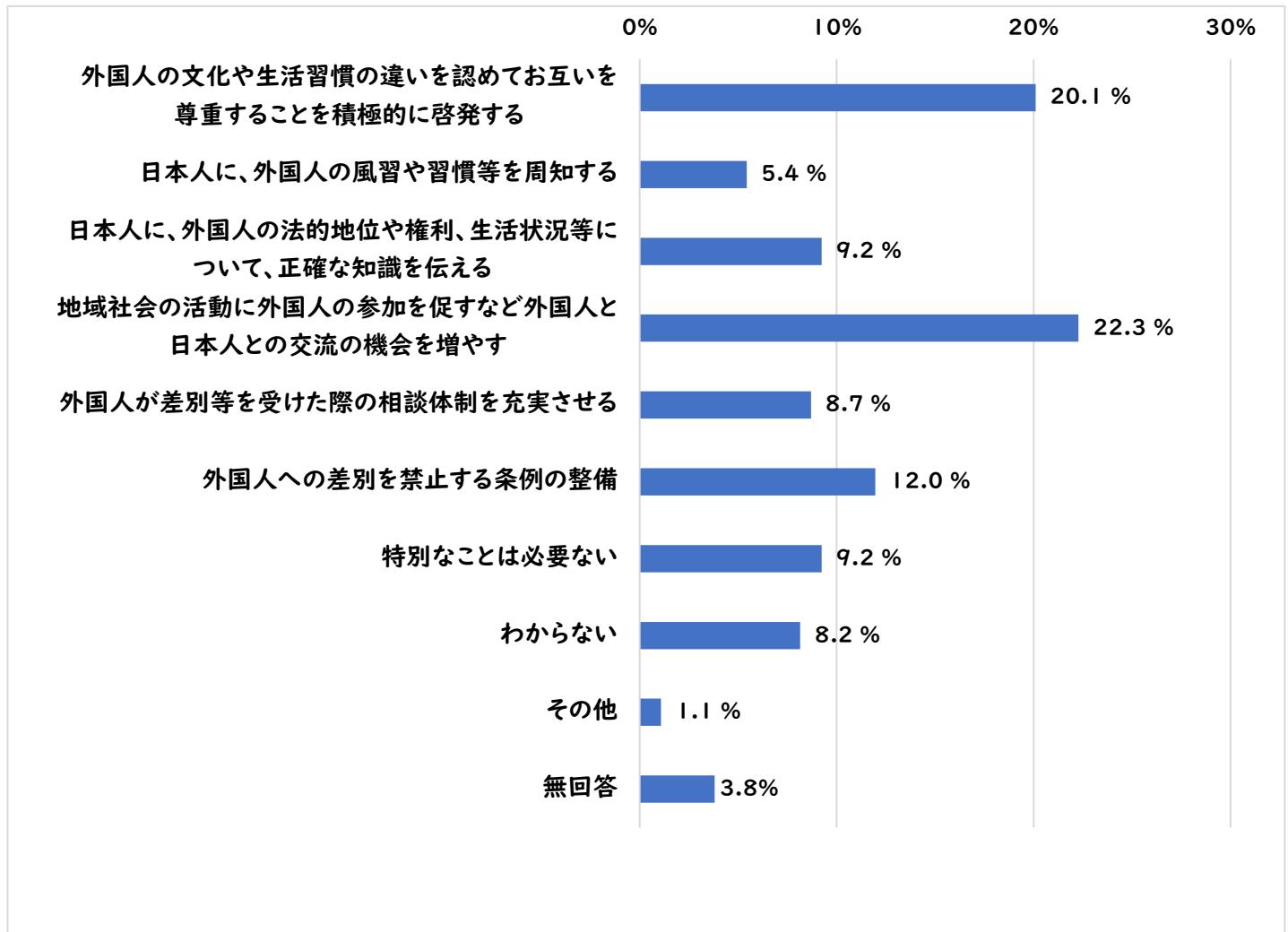
④差別を受けるかもしれない、インターネット上に自分のプロフィールを掲載するときも、国籍、民族は明らかにしなかった。



「ない」が 75.5%、次いで「たまにある」、「よくある」となっています。

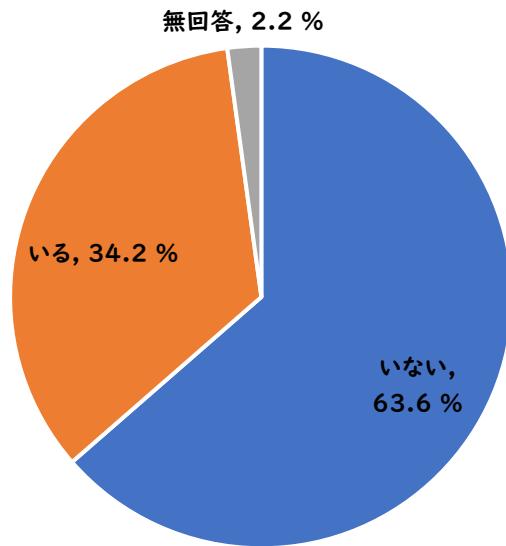
※2020 年は調査していません。

問44 外国人に対する差別や偏見をなくすために、彦根市はどのような取組が必要だと思うか。(n=184)



「地域社会の活動に外国人の参加を促すなど外国人と日本人との交流の機会を増やす」が22.3%と最も多く、次いで「外国人の文化や生活習慣の違いを認めてお互いを尊重することを積極的に啓発する」、「外国人への差別を禁止する条例の整備」となっています。
※2020年は調査していません。

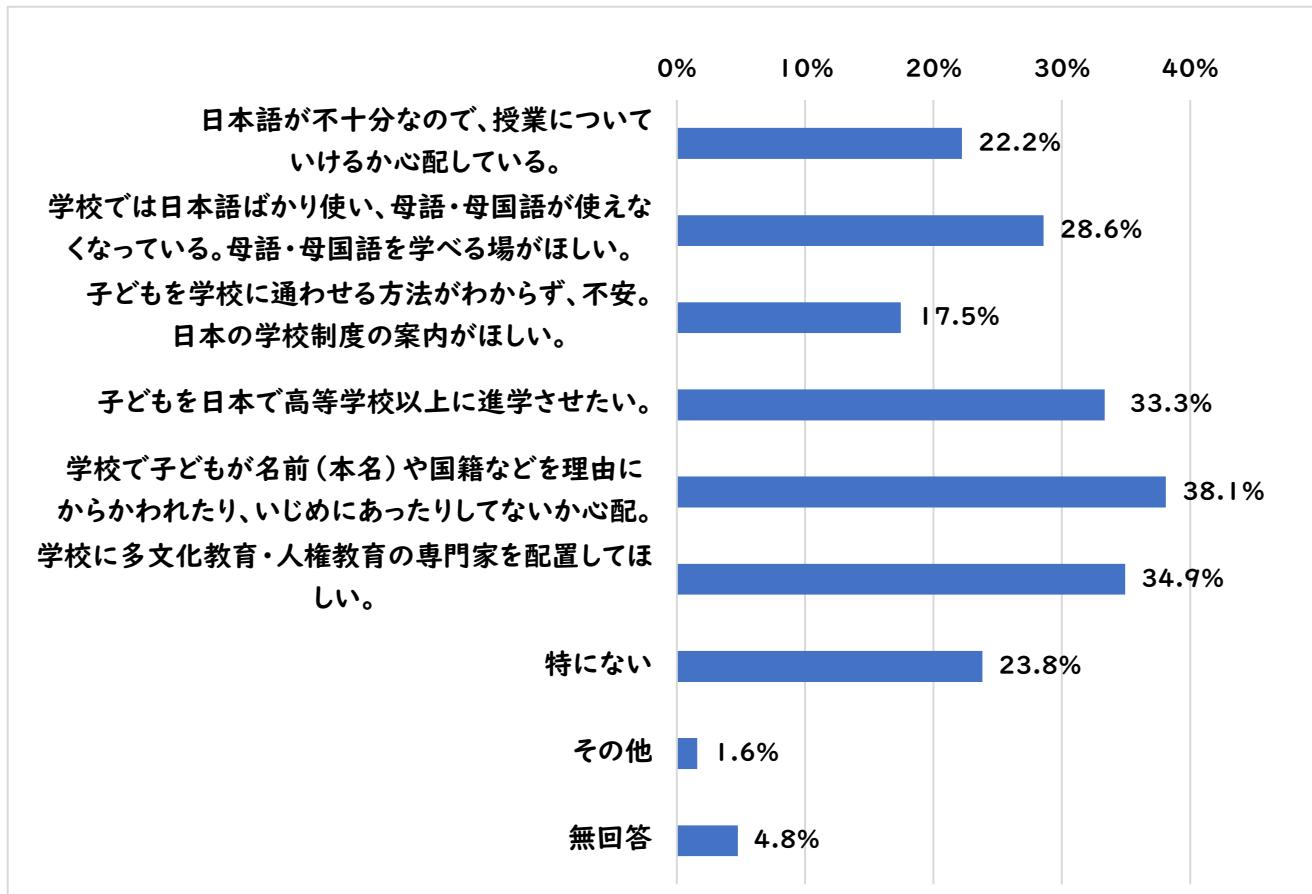
問45 あなたは日本で学校に通っている子どもがいるか。またはいたか。



「いない」が63.6%、「いる」が34.2%となっています。

※2020年は調査していません。

問46 子どもの教育に関して希望すること、心配していることがあるか。（いくつでも）
(n=63)

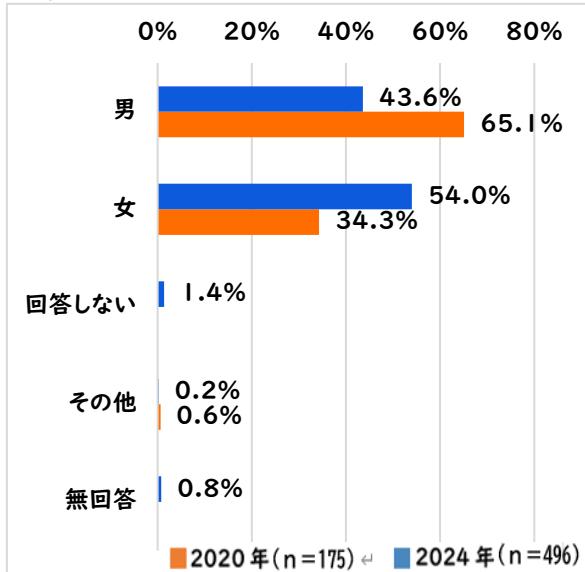


「学校で子どもが名前(本名)や国籍などを理由にからかわれたり、いじめにあったりしていないか心配」が38.1%と最も多く、次いで、「学校に多文化教育・人権教育の専門家を配置してほしい」、「子どもを日本で高等学校以上に進学させたい」となっています。

※2020年は調査していません。

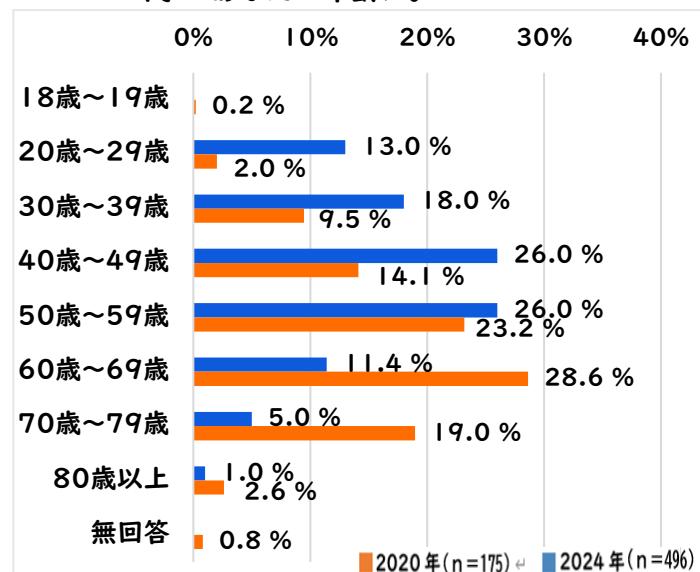
○ 日本人住民

問1 あなたの性別は。



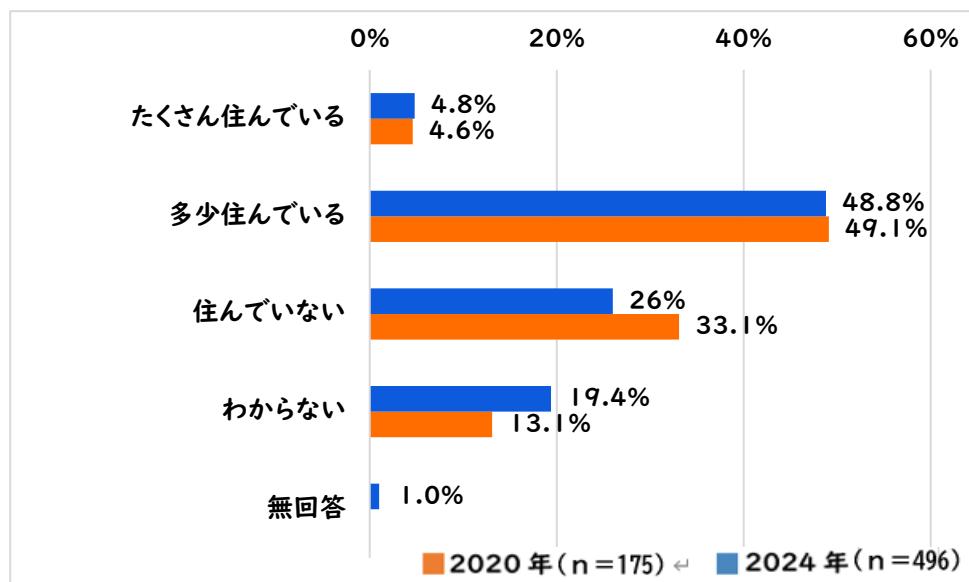
男性が 43.6%、女性が 54.0%、回答しないが 1.4%と、女性が多くなっています。

問2 あなたの年齢は。



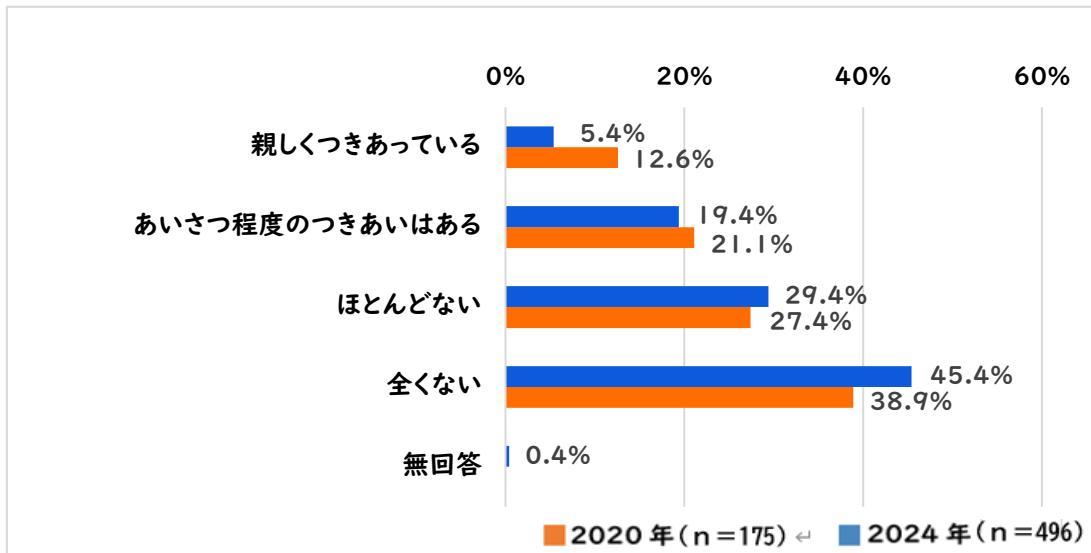
2020 年は「60～69歳」が最も多かったが、2024 年は「40～49歳」、「50～59歳」が一番多く、続いて30～39 歳、20～29 歳となっています。

問3 近くに外国人住民が住んでいるか。



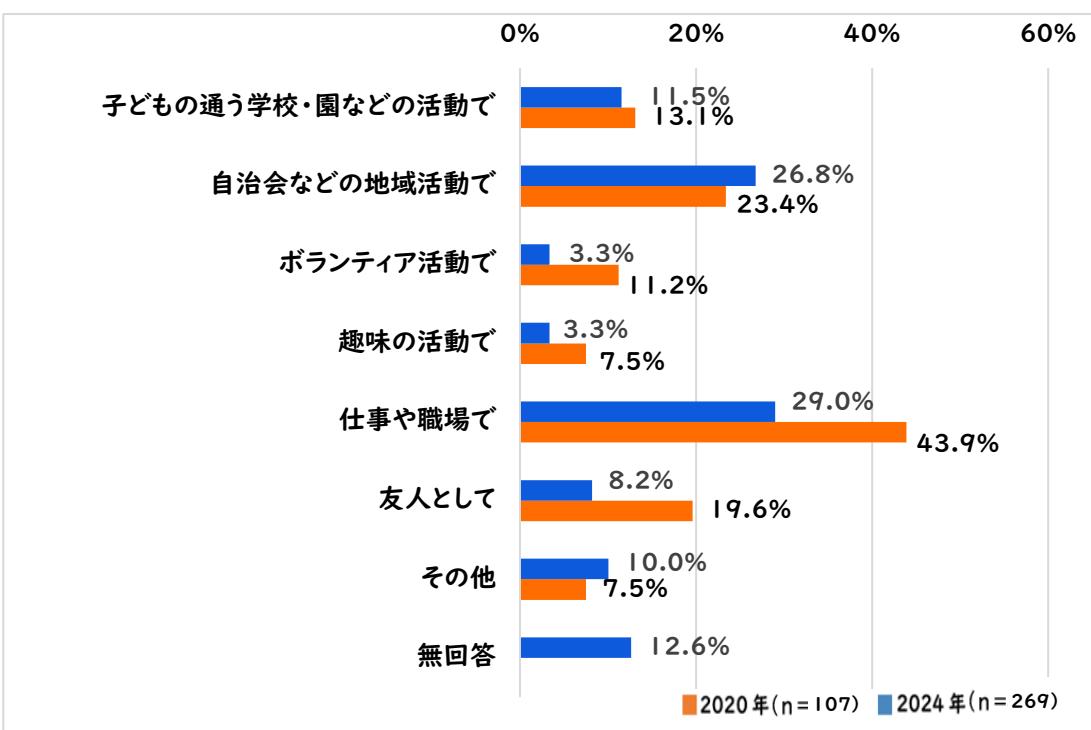
2020年、2024年ともに「多少住んでいる」が最も多く、次いで「住んでいない」「わからない」となっています。

問4 外国人住民との付き合いはある（あった）か。



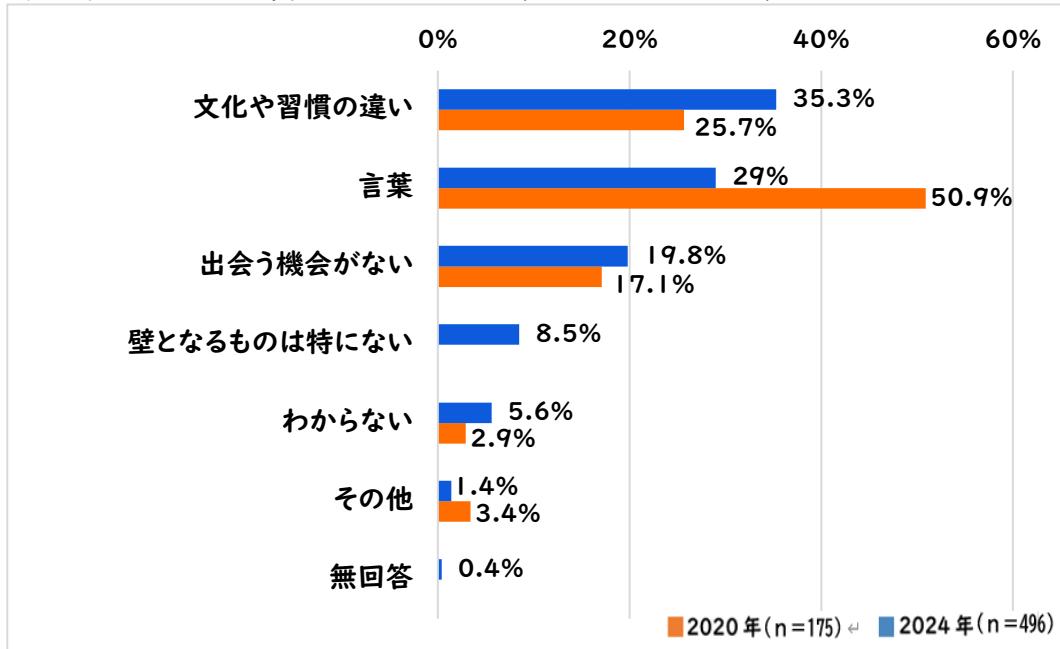
2020年、2024年ともに「全くない」が最も多く、次いで「ほとんどない」「あいさつ程度の付き合いはある」となっています。

問5 特にどんな付き合いがあるか。（いくつでも）



2020年、2024年ともに「仕事や職場で」が最も多く、2024年は次いで「自治会などの地域活動で」「子どもの通う学校・園などの活動で」となっています。（「無回答」を除く）

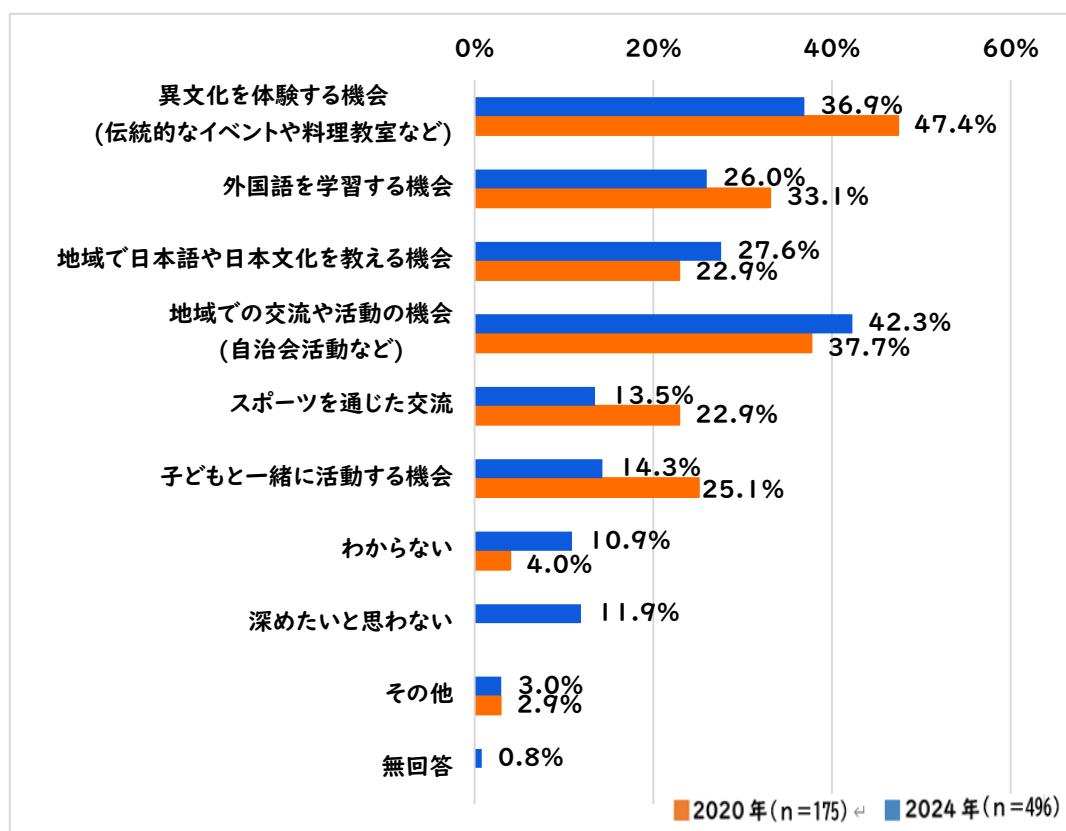
問6 外国人住民との交流で壁となること(なると思われること)はあるか。



2020年は「言葉」が最も多かったが、2024年は「文化や習慣の違い」が35.3%と最も多く、次いで「言葉」、「出会う機会がない」となっています。

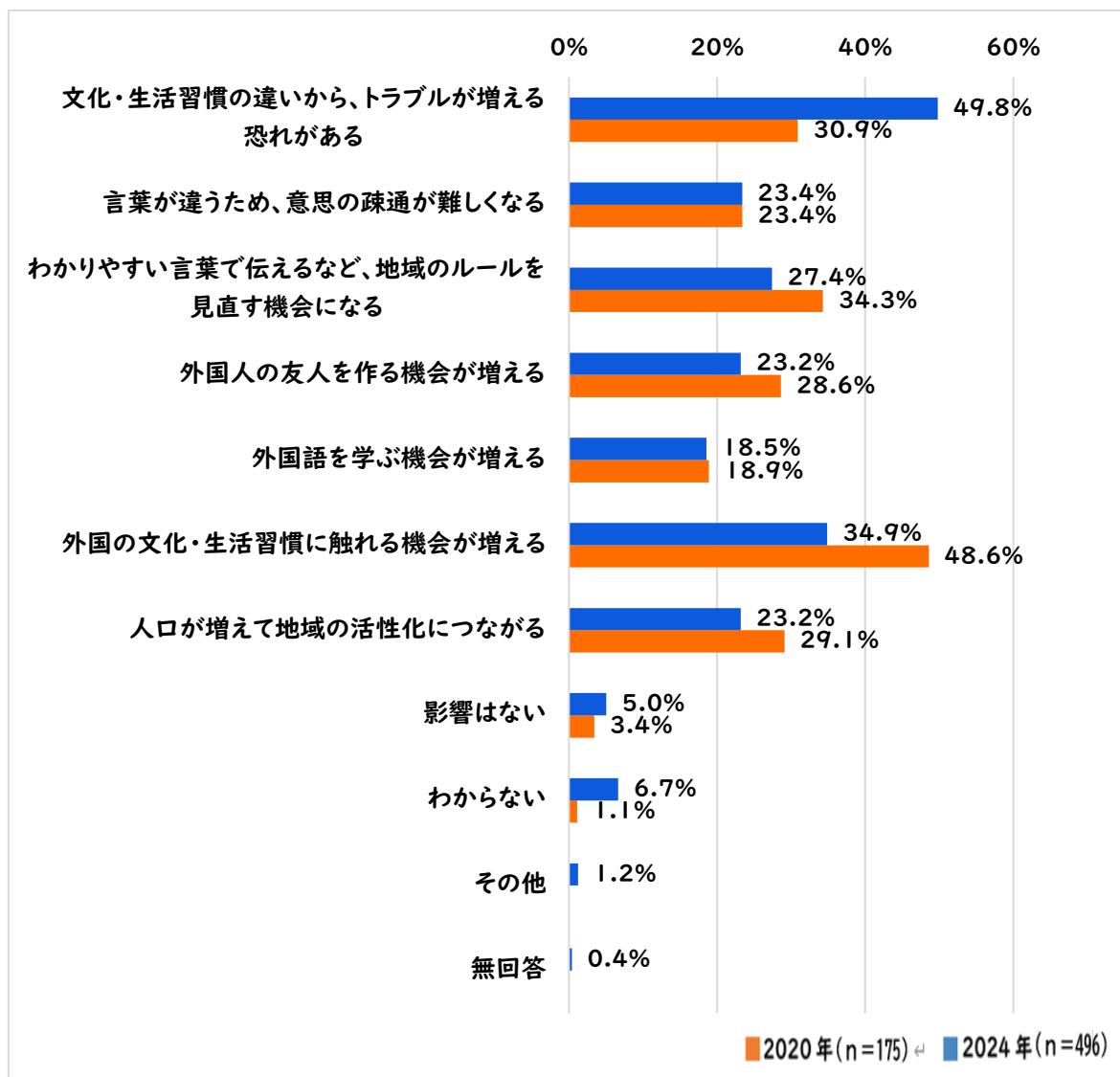
※2020年調査では「壁となるものは特にない」の選択肢がなく、2024年調査で追加したため、比較できません。

問7 外国人住民と相互に理解を深めるためにはどのような機会があればよいか。(いくつでも)



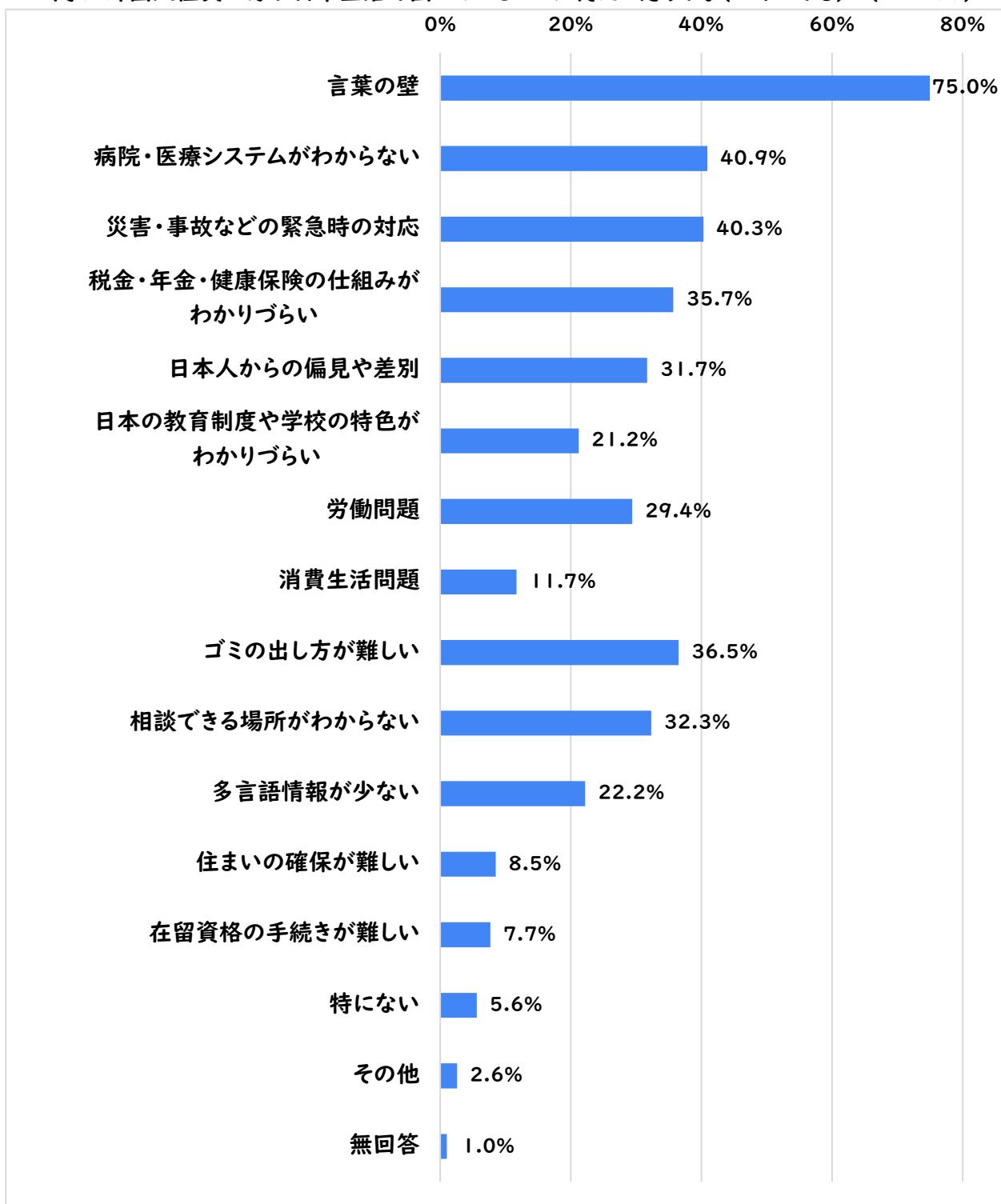
2020年は「異文化を体験する機会」が最も多かったが、2024年は「地域での交流や活動の機会」が42.3%と最も多く、次いで「異文化を体験する機会」、「地域で日本語や日本文化を教える機会」となっています。

問8 地域に外国人住民が増えることについてどう思うか。(いくつでも)



2020年は「外国の文化・生活習慣に触れる機会が増える」が最も多かったが、2024年は「文化・生活習慣の違いから、トラブルが増える恐れがある」が49.8%と最も多く、次いで「外国の文化・生活習慣に触れる機会が増える」、「わかりやすい言葉で伝えるなど、地域のルールを見直す機会になる」となっています。

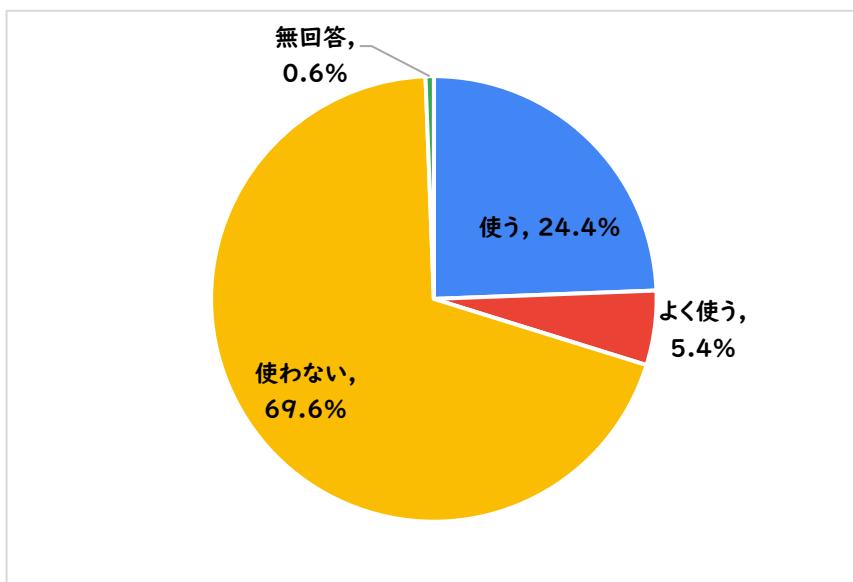
問9 外国人住民の方が日常生活で困っていることは何だと思うか。(いくつでも) (n=496)



「言葉の壁」が 75.0%と最も多い、次いで「病院・医療システムがわからない」、「災害・事故などの緊急時の対応」となっています。

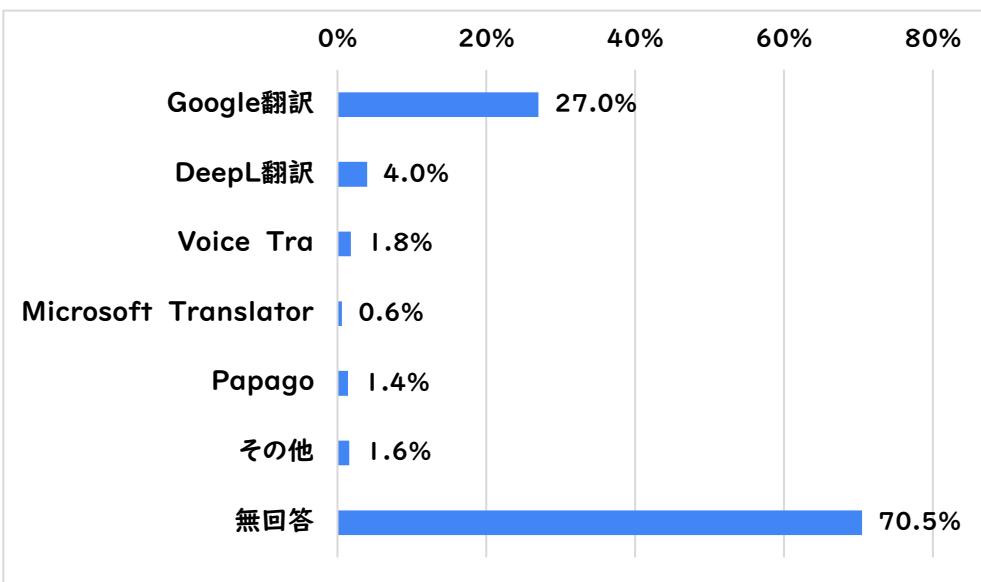
※2020年は調査していません。

問10 通訳・翻訳アプリはつかったことがあるか。 (n=496)



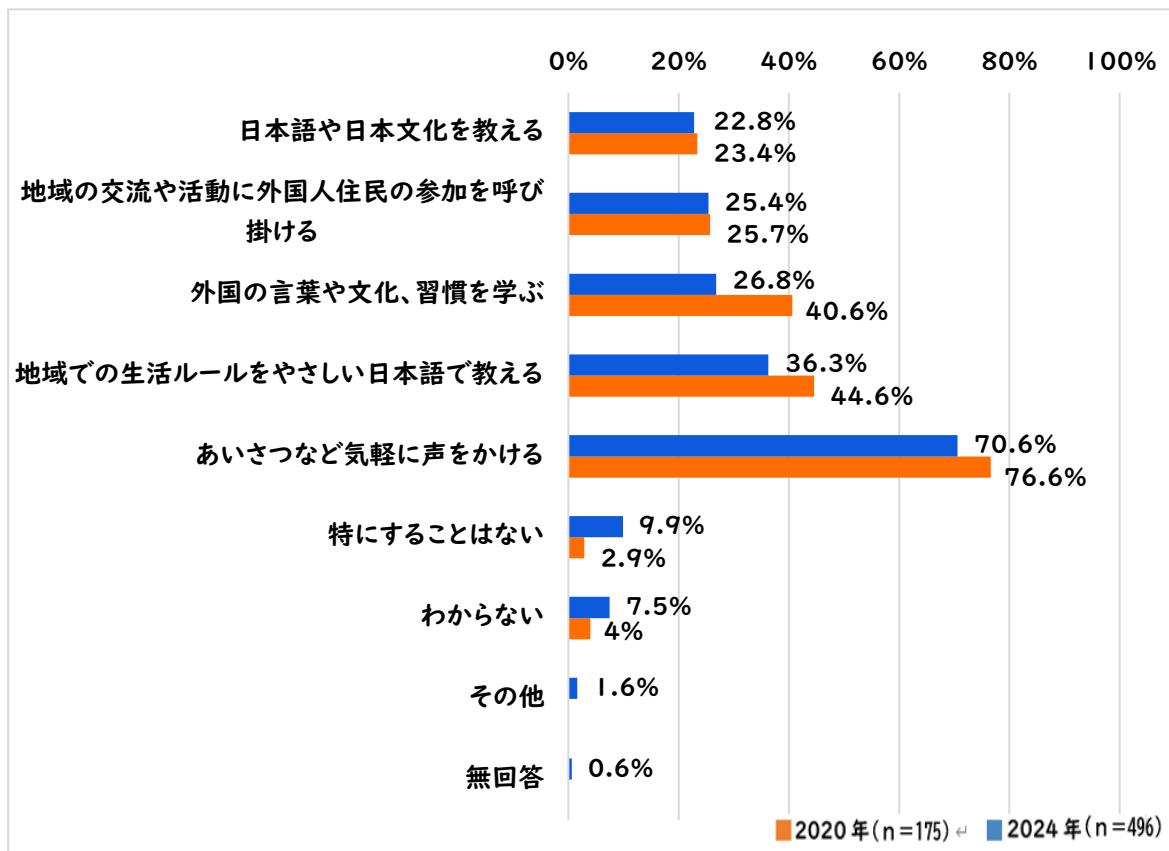
「使わない」が 69.6%と最も多く、次いで「たまに使う」、「よく使う」となっています。
※2020年は調査していません。

問11 どのような通訳・翻訳アプリをつかったことがあるか。(いくつでも) (n=496)



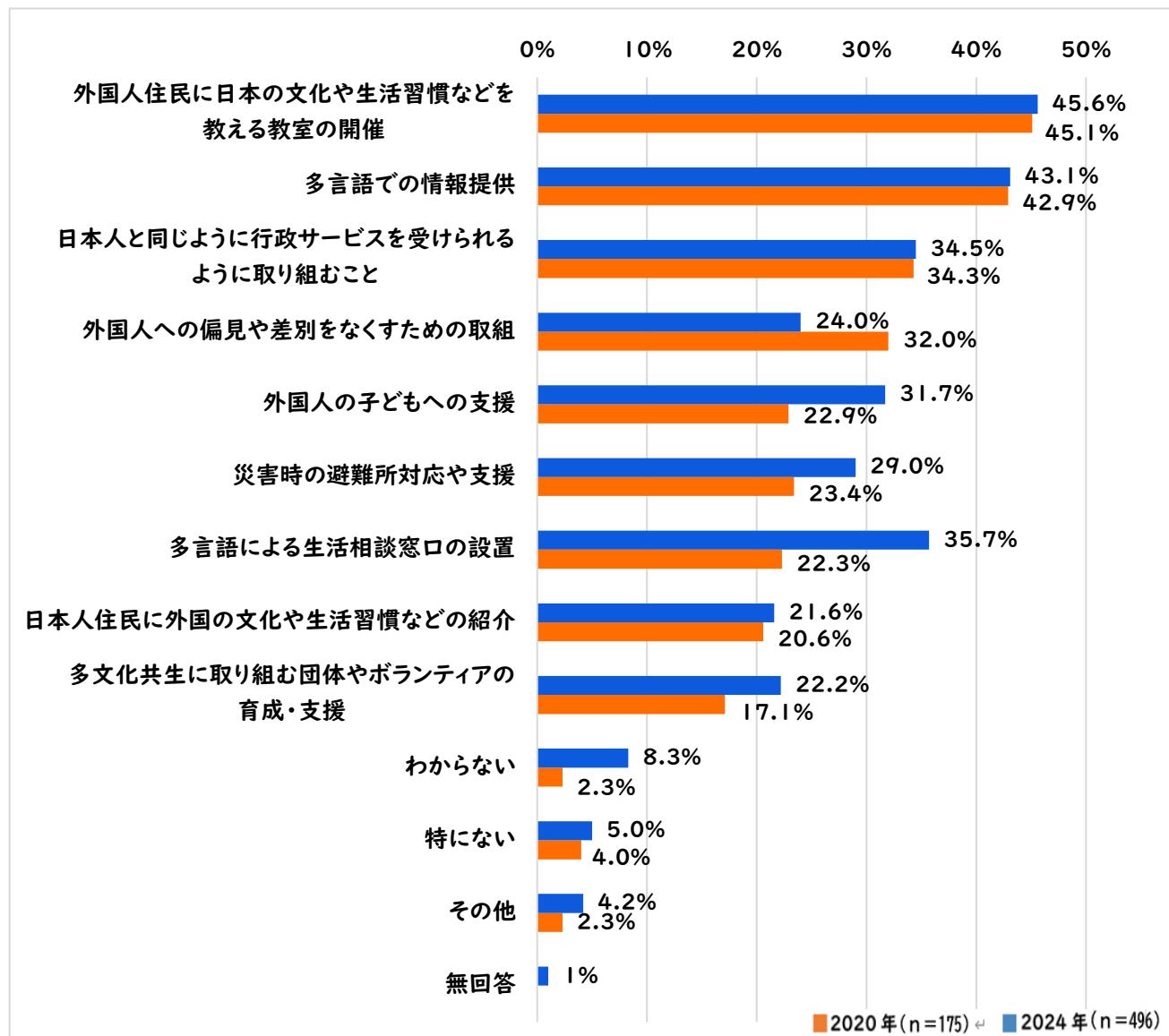
「Google 翻訳」が27.0%と最も多く、次いで「DeepL 翻訳」、「Voice Tra」となっています。(「無回答」を除く)
※2020年は調査していません。

問12 日本人住民と外国人住民がともにいきいきと暮らせる社会をつくるために、自分は特に何ができるか。（いくつでも）



2020年、2024年ともに「あいさつなど気軽に声をかける」が最も多く、次いで「地域での生活ルールをやさしい日本語で教える」、「外国の言葉や文化、習慣を学ぶ」となっています。

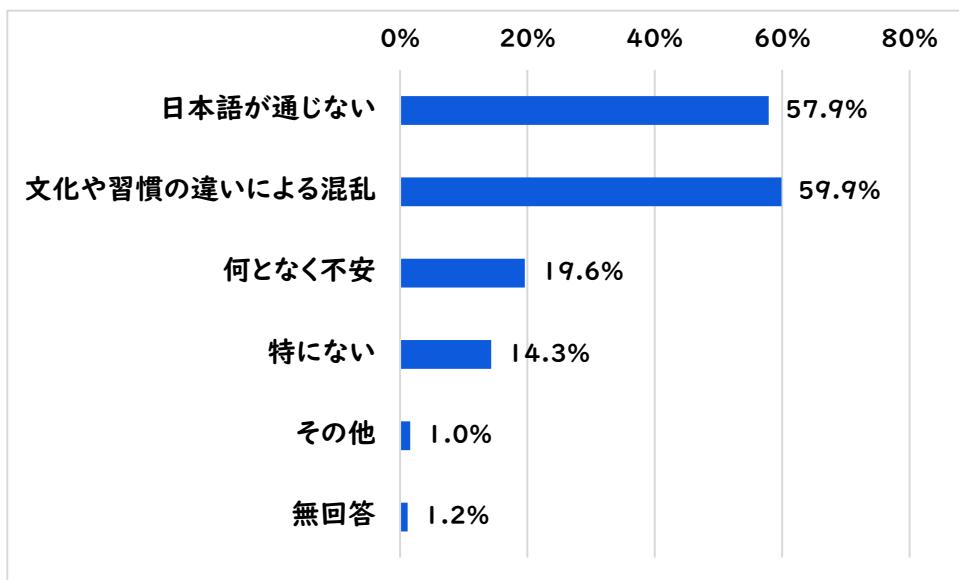
問13 日本人住民と外国人住民がともに生き生きと暮らせる社会をつくるために、市は特にどんなことに力を入れるとよいと思うか。（いくつでも）



2020年、2024年ともに「外国人住民に日本の文化や生活習慣などを教える教室の開催」が最も多く、次いで「多言語での情報提供」、その次に2024年は「多言語による生活相談窓口の設置」となっています。

問14 災害時に外国人住民と一緒に避難するうえで、不安に思うことはあるか。(いくつでも)

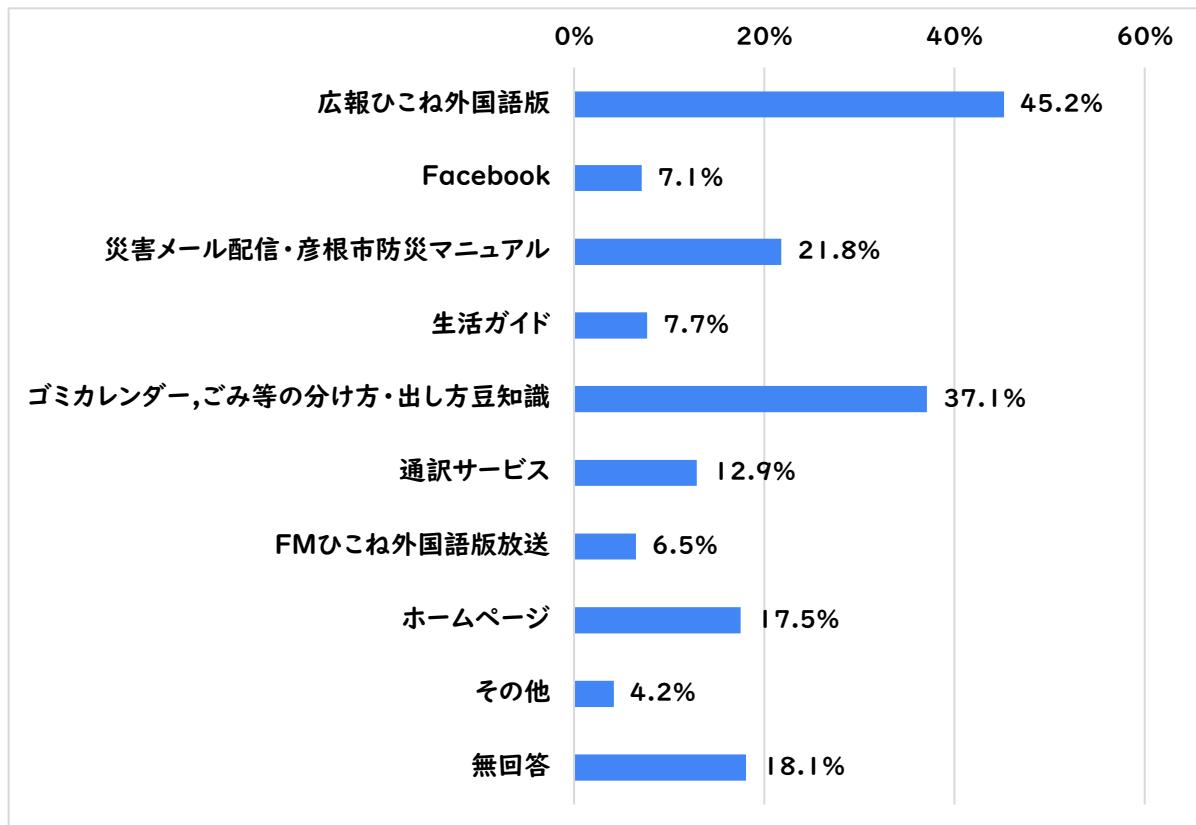
(n=496)



「文化や習慣の違いによる混乱」が 59.9% と最も多く、次いで「日本語が通じない」、「何となく不安」となっています。

※2020年は選択を1つのみに限定していたため、比較できません。

問15 自身が知っている、市が提供している多言語サービスは何か。(いくつでも) (n=496)

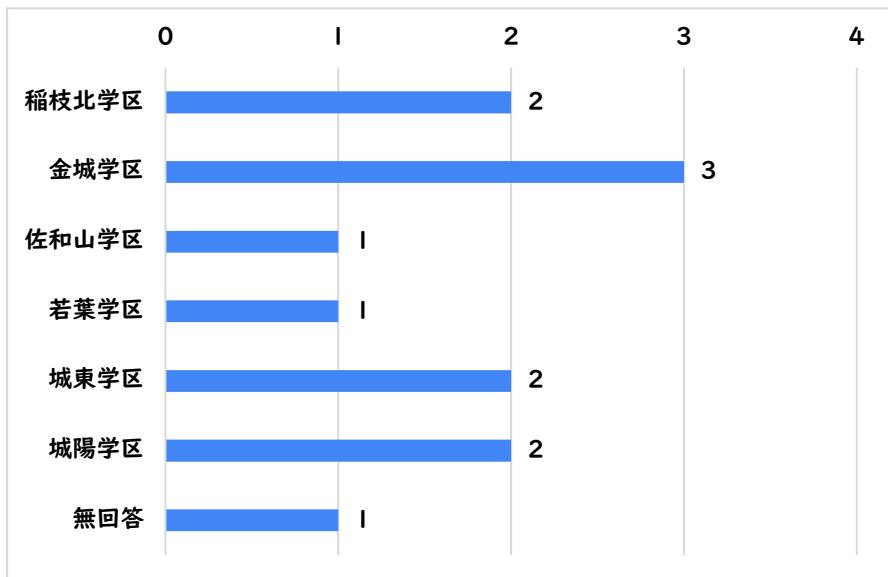


「広報ひこね外国語版」が 45.2% と最も多く、次いで「ゴミカレンダー、ごみ等の分け方・出し方豆知識」、「災害メール配信・彦根市防災マニュアル」となっています。

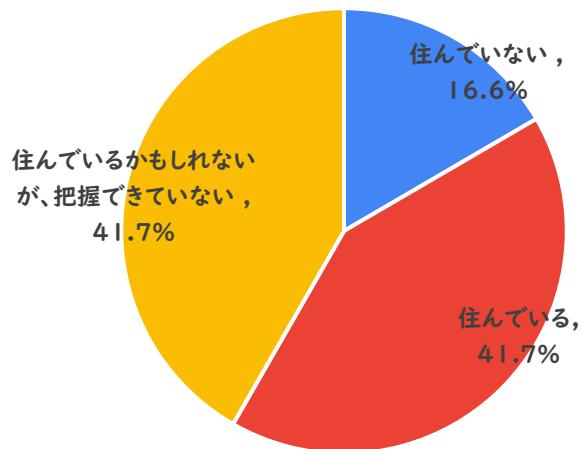
※2020 年は調査していません。

○自治会

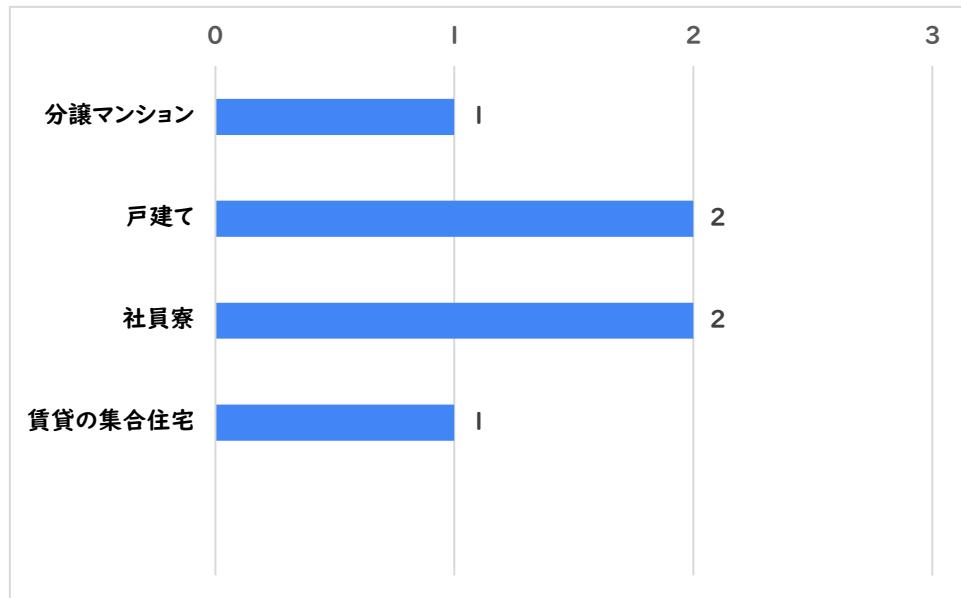
問1 あなたの自治会・町内会の小学校区は。(n=12)



問2 あなたの自治会・町内会の区域には外国人住民が住んでいるか。(企業の外国人社員寮含む)(n=12)



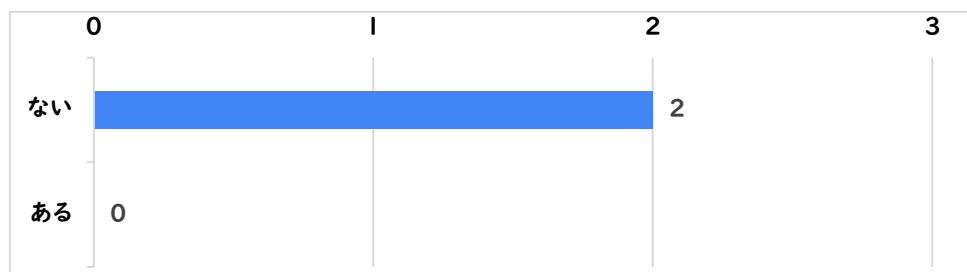
問 3 (問2で「住んでいる」と回答した方)自治会・町内会の区域に住んでいる外国人住民はどのような居住形態か。(わかる範囲で)(いくつでも)(n=5)



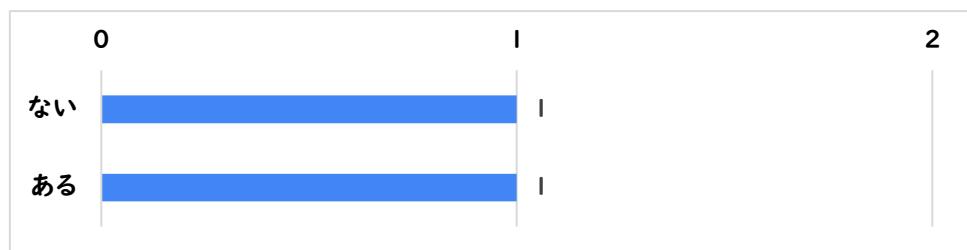
問 4 (問2で「住んでいる」と回答した方)自治会・町内会の区域に住んでいる外国人住民は、自治会に加入しているか。(n=5)



問 5 (問4で「おおむね全世帯加入している」と回答した方) 外国人住民が自治会・町内会の役員をされている／されたことはあるか。(n=2)



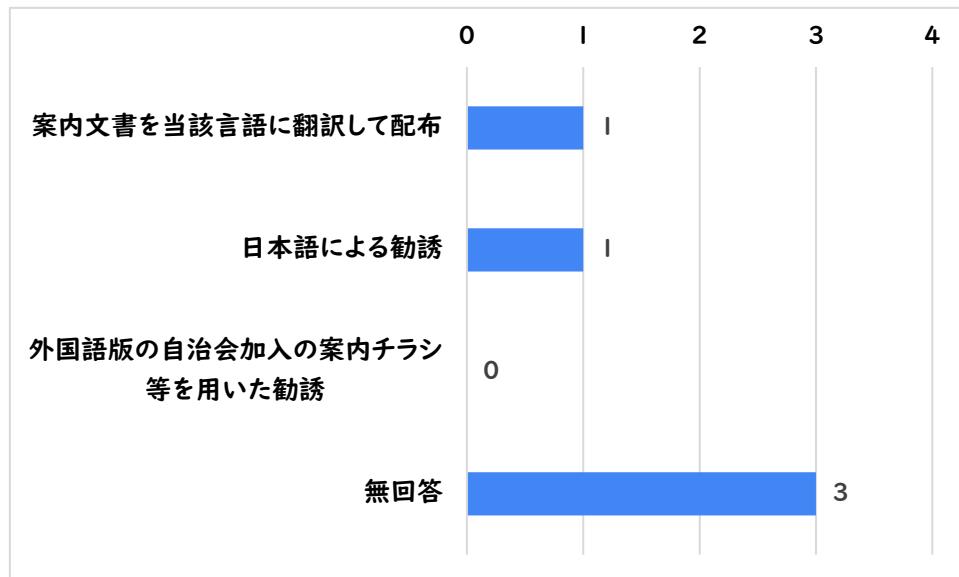
問 6 (問4で「おおむね全世帯加入している」と回答した方) 自治会・町内会の役員選挙等において、外国人住民に関して議論になっている／なったことがあるか。(n=2)



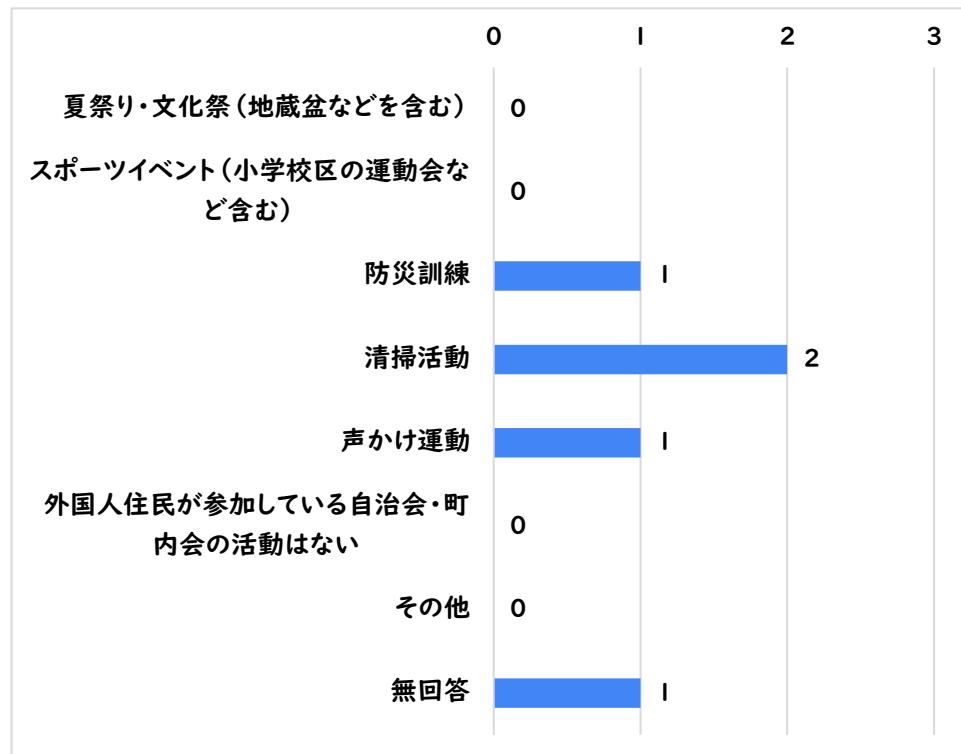
問 7 (問6で「ある」と回答した方) どのようなことが議論になったか、できれば具体的に。(n=1)

・言葉の壁があること

問 8 (問2で「住んでいる」と回答した方) 自治会・町内会への外国人住民の加入のため勧誘しているか。(いくつでも) (n=5)

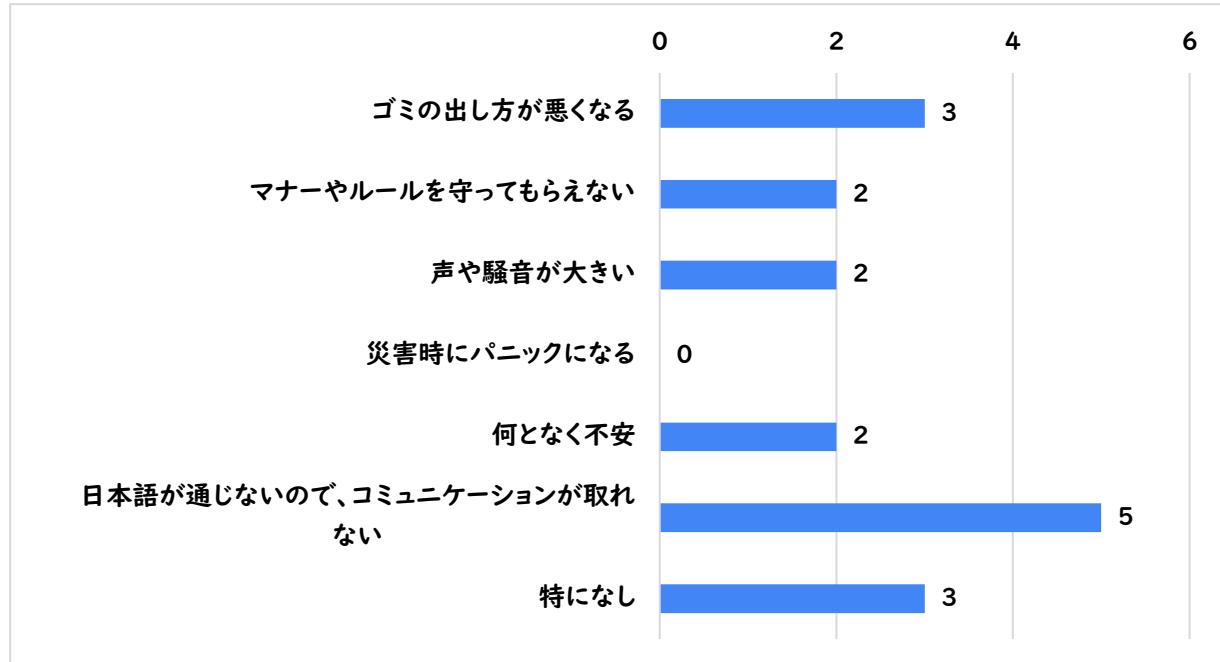


問 9 (問2で「住んでいる」と回答した方) 自治会への加入の有無に関わらず、外国人住民が参加されている活動はあるか。(いくつでも) (n=5)



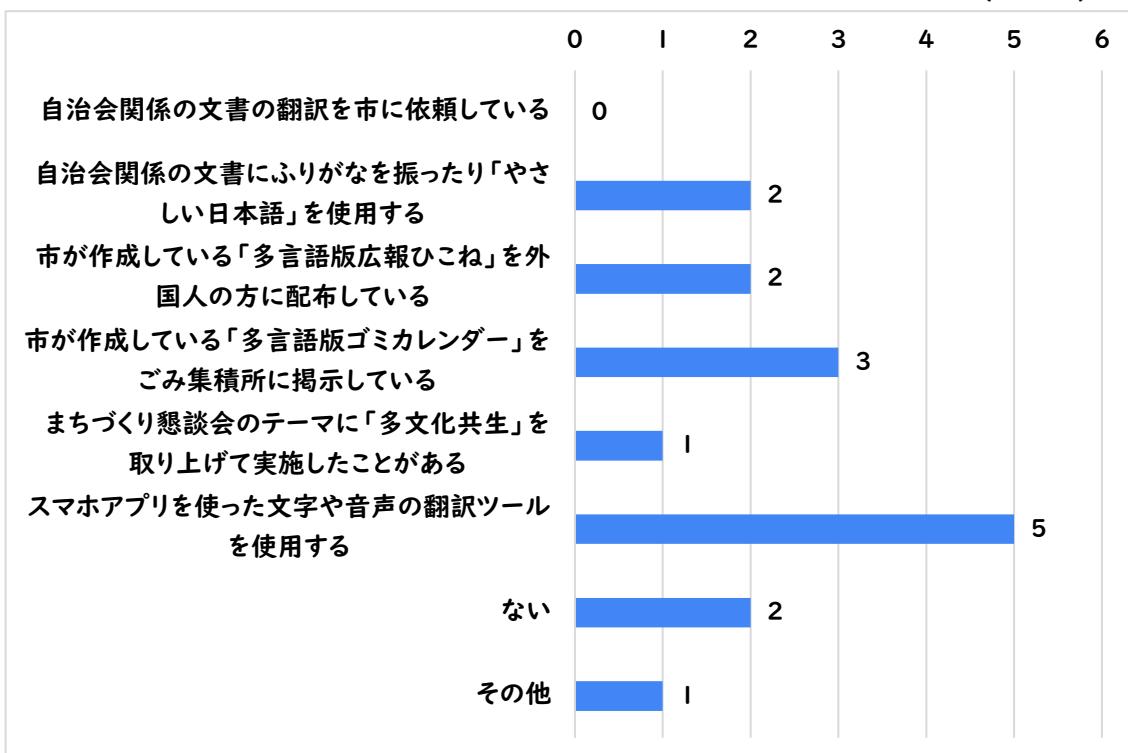
問 10 彦根市の外国人住民数が年々増加しているなか、外国人住民との共生において、自治会・町内会で心配に思うことはあるか。(いくつでも)

(n=12)

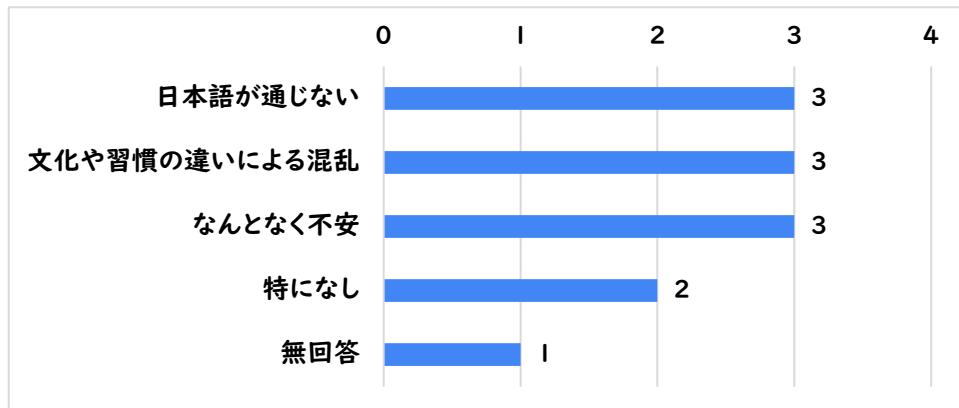


問 11 地域で外国人住民の方と共に気持ちよく暮らすために、自治会・町内会において工夫していることはあるか。(問 2 で「住んでいるかもしれないが、把握できていない」、「住んでいない」を選択した方は、今後できること。) (いくつでも)

(n=12)



問 12 地震などの災害時に避難所運営を行う際、外国人住民の方が避難してきたときはどのようなことが一番心配か。(n=12)



問 13 地震などの災害時に備えて、外国人住民に対して、自治会・町内会において工夫していることはあるか。(問 2 で「住んでいるかもしれないが、把握できていない」、「住んでいない」を選択した方は、今後できること) (いくつでも)

(n=12)

